



Aoralscan Elite

Aoralscan Elite Wireless

ソフトウェアバージョン：V3556

① 注意事項	⑥ CAD前の準備
② 製品	⑦ スキャンツール
③ 設置方法	⑧ メンテナンス
④ オーダーシステム	⑨ トラブルシューティング
⑤ スキャン画面・スキャン方法	⑩ マニュアル動画

① 使用前に ----- 2p	① プレビュー及び編集 ----- 36p
② 免責事項 ----- 2p	② 座標の調整 ----- 37p
③ 製品概要 ----- 2p	③ 部位マーキング ----- 37p
④ 取り扱いについて ----- 2p	④ 咬合調整 ----- 37p
⑤ 製品仕様 / Elite ----- 4p	⑤ 座標の調整 ----- 37p
⑥ スキャナ名称 / Elite ----- 5p	⑥ マージンライン抽出 ----- 40p
⑦ クレードル / Elite ----- 5p	⑦ アンダーカット確認 ----- 41p
⑧ アクセサリー / Elite ----- 6p	⑧ ダイナミックバイト ----- 41p
⑨ 製品仕様 / Wireless ----- 7p	
⑩ スキャナ名称 / Wireless ----- 8p	
⑪ クレードル / Wireless ----- 9p	
⑫ 充電ケース / Wireless ----- 9p	
⑬ アクセサリー / Wireless ----- 10p	
⑭ ソフトウェアプログラムのインストール方法 ----- 11p	① Dental Viewer ----- 42p
⑮ アカウント作成方法 ----- 11p	② ScanBinder ----- 42p
⑯ ログイン方法 ----- 11p	
⑰ スキャナの接続 ----- 12p	③ スキャナクレードルの消毒 ----- 43p
⑱ スキャナの切断 ----- 13p	④ スキャナ本体の消毒 ----- 43p
⑲ ペアリング設定 ----- 13p	⑤ スキャンチップの洗浄及び消毒または滅菌 ----- 44p
⑳ スキャナの承認 ----- 14p	⑥ 保管方法 ----- 45p
㉑ 承認期間の延長 ----- 15p	⑦ 廃棄方法 ----- 45p
㉒ スキャナキャリブレーション ----- 16p	
㉓ オーダーインターフェース ----- 17p	⑨ トラブルシューティング
㉔ オーダー前の設定 ----- 17p	⑩ エラーコード対応表 ----- 46p
㉕ 新しいオーダーの生成 ----- 18p	
㉖ オーダーインポート ----- 19p	
㉗ オーダーリスト ----- 19p	
㉘ オーダーデータの確認 ----- 20p	
㉙ スキャン前の設定 ----- 21p	
㉚ スキャンインターフェース ----- 22p	
㉛ 上下顎スキャン ----- 25p	
㉜ マッチングについて ----- 26p	
㉝ 咬合スキャン ----- 28p	
㉞ インプラント顎スキャン ----- 29p	
㉟ 診断模型 (pre-op) スキャン ----- 30p	
㉟ 咬合の優先スキャン ----- 30p	
㉢ 口腔内フォトグラメトリーのスキャン----- 31p	

① 注意事項

① 使用前に

本マニュアルには、スキャナを操作し IntraoralScan ソフトウェアを正しく安全に使用するための設定に関する重要な手順と情報が記載されている

- ・本製品は精密測定機器のため、使用する前に必ずこのマニュアルを読み注意事項を確認の上使用すること
- ・精度に影響を及ぼし、誤動作や故障の原因になるため必ず厳守すること
- ・スキャナーは心臓ペースメーカーや ICD へ干渉する可能性があるため、それらを装着している患者への使用は控えること

② 免責事項

ハードウェアやソフトウェアの一部は定期的に更新されるため、本マニュアルに記載されている指示、図、及び仕様の一部は予期なく変更する場合がある

(2025.9月現在)

保証を無効とする条件

- ・指定外の付属品や周辺機器、ケーブル等の使用
- ・スキャナの改造
- ・ソフトウェアの改ざん
- ・目的以外でのスキャナの使用や誤用した場合

・保守期限

3年（延長保証プランに加入時、5年）

*3年（延長保証プランに加入時5年）経過以降は保守プラン等の契約が不可能 *故障した際は有償で対応が可能

③ 製品概要

- ・本製品は、スキャンパウダーを使用せずに、口腔内をカラースキャンできるように設計されており、高速で高精度のデータをスキャン可能
- ・単独歯、複数歯、歯列弓全体をスキャン
- ・本製品は、付属のソフトウェア「IntraoralScan」を組み合わせて使用し、スキャン及びデータの管理を行う
- ・デジタル印象や、歯科治療の様々な目的のためにスキャンデータ (STL/OBJ/PLY 形式) を CAD/CAM システムにエクスポートできる

④ 取り扱いについて

設置について

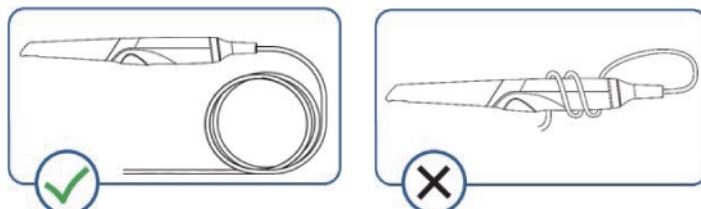
- ・安定した平らな場所に固定してから使用する
- ・直射日光が当たらないところで使用する
- ・ソフトウェアを設置後、スキャナをパソコンに接続する
- ・マニュアルで指示している設置環境、パソコンで設置して使用する (4p 参照)

スキャナについて

- ・スキャナ起動後とスキャナチップ交換後は、スキャナチップの結露を防ぐためにヒーターが起動する
- ・スキャナ内部に熱がこもると、故障の原因になる
- ・引火性の液体や可燃性のガスの付近で本製品を使用しないこと
- ・スキャナチップを取り付けていない状態で、スキャナを患者に使用しないこと
- ・スキャナチップを床などに落とした場合は、ミラーなどが破損している可能性があるため再使用しない
- ・スキャナを落下させたり、振動、衝撃を与えないように取り扱いには十分注意すること
- ・スキャナを落下させたり、衝撃を与えた場合はキャリブレーションを行うこと
- ・キャリブレーションは最適な精度を保つ為に周期的に実行すること（2週間に1回）
- ・マニュアルに記載している内容の範囲で使用すること

管理について

- ・教育を受けた医療従事者のみが、スキャナと付属品を使用することが出来る
- ・スキャナとクレードルの内部に液体が入らないようにし、濡れた手で触らないこと
水や湿気が原因で、電子部品が故障し誤動作の原因になる
- ・スキャナがスキャンソフトウェアに連動されている際、ケーブルをパソコンから取り外さないこと
- ・ケーブルの破損防止の為、ケーブルを緩く巻き、ねじったり、強く曲げたりしない



- ・使用しない場合は、パッケージボックスを安全な場所に保管すること
- ・本製品はクリニックで使用する医療機器で、周期的な洗浄や消毒が必要であり、
マニュアルに記載している方法で実行すること
- ・任意に本製品とソフトウェアを分解、変更等の操作を行わないこと

② 製品

① 製品仕様 / Elite

スキャナ本体

寸法 : 245 × 30 × 26 mm (W×D×H) (スキャンチップ含む)

重量 : 124 ± 20g (スキャンチップ含む、ケーブルなし)

スキャン範囲 : 19 × 14 mm (big)

16 × 12 mm (standard)

12 × 9 mm (mini)

出力ファイル : STL、OBJ、PLY

インターフェース : Type-C USB 3.0、Type-A USB 3.0

コネクション : ワイヤード

光源 : LED and laser

電源 : 5V DC/3A

スキャン深度 : 22mm

ライフサイクル : 8 年

環境要件

動作およびストレージ要件

・動作温度 : 10~40°C

・保管 / 輸送時温度 : -30~60°C

・保管 / 輸送時相対湿度 : 30~90%RH

・作業相対湿度 : 30~80%

・気圧 : 70~106kPa

パソコンの推奨スペック

Windows

OS : Windows 10 64Bit / Windows 11 ~

CPU : Intel®Core™ i7-8700H ~

RAM / HDD : 32GB ~ / 1TB ~

グラフィックカード : NVIDIA RTX 4060 8GB ~ (RTX 3050, 4050 除く)

I/O ポート : USB 3.0 Type-A (2 ポート以上)

O/S : Windows 10 64bit

解像度 : 1920 × 1080 60Hz ~

Mac

OS : Ventura 13 ~

CPU : 推奨 - M1 Pro (8-Core CPU、14-Core GPU) / M2 Pro (10-Core CPU、16-Core GPU)
M1 Max (10-Core CPU、24 or 32-Core GPU)

最小 - M2 (8-Core CPU、10-Core GPU)

RAM / HDD : 16GB ~ / 1TB ~

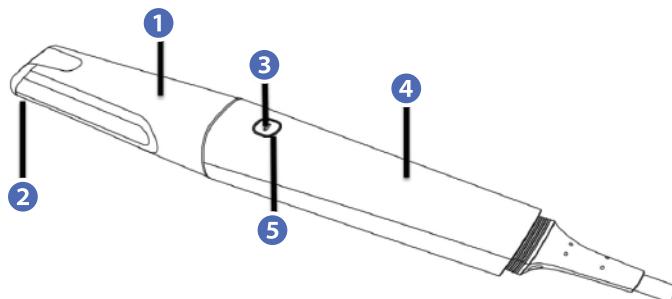
グラフィックカード : NVIDIA RTX 4060 8GB ~ (RTX3050, 4050 除く)

I/O ポート : USB3.0 Type-C × 1 ~

** 次世代の GPU をご使用いただく場合は、対応していない可能性もございますのでお問合せください。

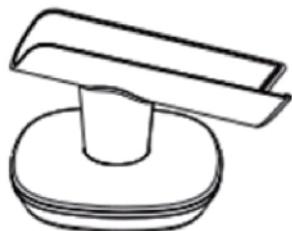
** 記載は推奨スペックです。記載より高い、もしくは低いスペックでもご使用いただける場合がございますので、お問い合わせください。

② スキャナ名称



- ①「ヒーター」 : ヒーターの熱によりスキャナチップ内のミラーの結露を防止する
- ②「スキャンチップ」 : スキャンチップを使用して、上下顎をスキャン
- ③「スキャンボタン」 : 一回押すとスキャンを開始・停止する
約3秒間長押しすると次のステップに進む、約7秒間長押しするとスキャナ本体の電源がOFF
ダブルクリックするとモーション機能を開始する
- ④「スキャナ本体」 : 最適なスキャン角度を得るには、スキャナ本体を回転させながらスキャンする
スキャン中にスキャナ本体が熱くなることがあるが、ユーザーや患者に害を及ぼすことはない
- ⑤「LED リングライト」 : スキャナのステータスを示す
- 緑色点灯 : スキャンモード、加熱中、スタンバイ状態（使用可能）
- 緑色の点滅 : スキャナのスタンバイモード、バッテリー残量が少ない、接続がされていない
- オレンジ : 異常状態、スキャナが正しく接続されていないか故障している
またはスキャナの先端がしっかりと挿入されていない
- 消灯 : スリープモード、電源がない、スキャナがシャットダウンされている

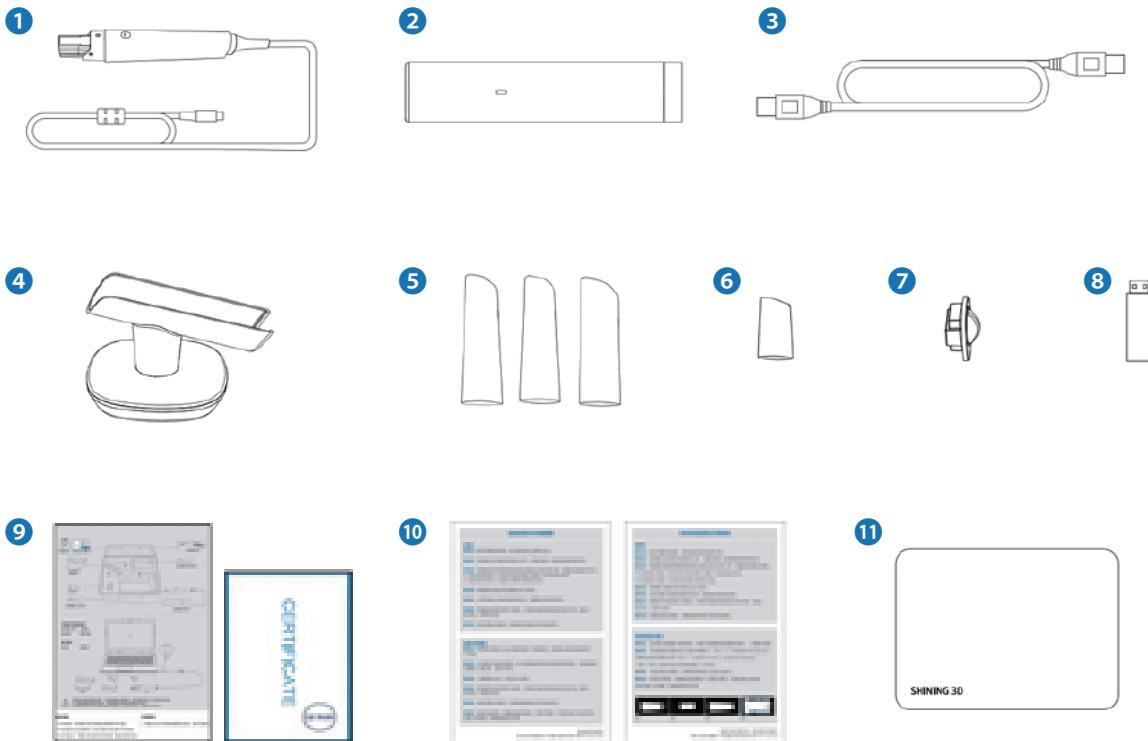
③ スキャナクレードル



注意

- スキャナを使用しないときは、クレードルに置くこと
- スキャナをクレードルに置くと、自動的にスタンバイモードになる
スキャナをクレードルに置いたまま10分以上使用しないと、スリープモードになる
- スキャナに電源が接続されている限り、スタンバイモードまたはスリープモードであっても、スキャナの先端は加熱される

④ アクセサリー



- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| ① 「スキャナ本体」 × 1 | |
| ② 「キャリブレータ」 × 1 | : キャリブレーションを行うアクセサリー |
| ③ 「USB ケーブル」 × 1 | : キャリブレーターと PC を接続する |
| ④ 「クレードル(台座)」 × 1 | : スキャナを置く台 |
| ⑤ 「スキャンチップ」 × 6 | : Big 2 本、Standard 3 本、Mini 1 本 |
| ⑥ 「プロテクションキャップ」 × 1 | : ゴミやホコリ、塵の侵入を防ぐ |
| ⑦ 「ダストカバー」 × 1 | : キャリブレーターのカバー |
| ⑧ 「USB ドングル」 × 1 | : ソフトウェアパッケージ内蔵 |
| ⑨ 「クイックガイドと品質認証」 × 1 | |
| ⑩ 「消毒ガイドライン」 × 1 | |
| ⑪ 「パッケージボックス」 × 1 | |

付属品の注意

- ・本製品に付属していない、または弊社が推奨していないものを使用すると、耐久性の低下など、デバイスに影響を与えることがある
- ・指定外の周辺機器、付属品、ケーブル等は、漏電や接続の安全性を損なう可能性があり、保証も無効である

② 製品

⑤ 製品仕様 / Wireless

スキャナ本体

寸法	: 247 × 38 × 37 mm (L×W×H) (スキャンチップ含む)
重量	: 194 ± 15g (スキャンチップ、バッテリー含む)
スキャン範囲	: 19 × 14 mm (big) 16 × 12 mm (standard) 12 × 9 mm (mini)
出力ファイル	: STL、OBJ、PLY
インターフェース	: Type-C USB 3.0、Type-A USB 3.0
コネクション	: ワイヤレス
光源	: LED and laser
電源	: 5V DC/3A
スキャン深度	: 22mm

バッテリー

タイプ	: 充電式リチウムイオン電池
電圧	: 3.6V
容量	: 3250 mAh
サイクル寿命	: ≥ 400 サイクル *400 サイクルの充電と放電の後、バッテリー容量は元の容量の 80% 以上になる

環境要件

動作およびストレージ要件

スキャナ

・動作温度	: 10～30°C
・保管 / 輸送時温度 (バッテリーなし)	: -30～60°C
・保管 / 輸送時相対湿度	: 30～90%RH
・作業相対湿度	: 30～80%RH
・保管 / 輸送時相対湿度 (バッテリーなし)	: 30～90%RH
・気圧	: 70～106kPa
・平均故障間隔 (MTBF)	: 10,000 時間 (光源除く)

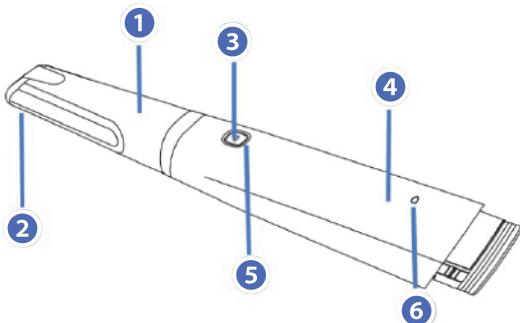
バッテリー

・動作温度	: 0～45°C
・バッテリー保管 / 輸送時温度	: -20～60°C
・バッテリー保管 / 輸送時相対湿度	: -20～45 °C (1ヶ月未満) -20～35 °C (3ヶ月未満) -10～25 °C (12ヶ月未満)
・バッテリー保管 / 輸送時相対湿度	: ≤ 75%RH

パソコンの 推奨スペック

Aoralscan Elite と共に「② 製品 ① 製品 / Elite」 p.4 参照

⑥ スキャナ名称



- ①「ヒーター」 : ヒーターの熱によりスキャナチップ内のミラーの結露を防止する
- ②「スキャンチップ」 : スキャンチップを使用して、上下顎をスキャン
- ③「スキャンボタン」 : 一回押すとスキャンを開始、停止する
約 2 秒間長押しすると次のステップに進む、約 5 秒間長押しするとスキャナ本体の電源が OFF
ダブルクリックするとモーション機能を開始する
- ④「スキャナ本体」 : 最適なスキャン角度を得るには、スキャナ本体を回転させながらスキャンする
スキャン中にスキャナ本体が熱くなることがあるが、ユーザーや患者に害を及ぼすことはない
- ⑤「インジケーター」 : スキャナのステータスを示す
緑色点灯 : スキャンモード、加熱中、スタンバイ状態（使用可能）
緑色の点滅 : スキャナがクレードルとペアリング設定されている
オレンジ : 異常状態、スキャナが正しく接続されていないか故障している
またはスキャナの先端がしっかりと挿入されていない
消灯 : スリープモード、バッテリーがスキャナに挿入されていない、スキャナがシャットダウンされている

⑥「バッテリーインジケーター」

- 緑色点灯 : スキャナがクレードルではなく、バッテリー残量が 20%を超えている状態
緑色の点滅 : スキャナがクレードルで充電されている
緑色でゆっくり点滅 : バッテリー残量が 20%未満
緑色で早く点滅 : バッテリー残量が 0%
消灯 : バッテリーがスキャナに挿入されていない、スキャナがシャットダウンされている

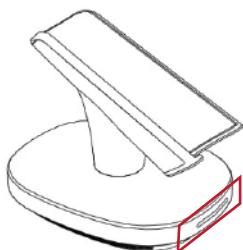
スタンバイモードとスリープモード

- ① スキャナを電源が入ったクレードルに置くと、次のようになる
- すぐにスタンバイモードになり、スキャナ本体のインジケーターが緑色に点灯
 - 3 分後、スキャナはスリープモードに入り、インジケーターが消灯
- ② スキャナがクレードルに配置されていない場合、または電源が入っていないクレードルに配置されている場合
- 30 秒後にスタンバイモードになり、スキャナ本体のインジケーターが緑色に点灯
 - 3 分後、スキャナはスリープモードに入り、インジケーターが消灯
- ③ 電源が入ったクレードルにスキャナを置くと、スキャナの先端は現在の温度を 3 分間保持する

注意

- スキャナを使用しないときは、クレードルに置くこと
- スキャナをクレードルに置くと、自動的にスタンバイモードになる
スキャナをクレードルに置いたまま 10 分以上使用しないと、スリープモードになる
- スキャナに電源が接続されている限り、スキャナがスタンバイモードまたはスリープモードであっても、
スキャナの先端は加熱される

⑦ スキャナクレードル



スキャナ本体とクレードルの間の距離が5メートル以内に保たれている場合、信号は良好

クレードルインジケーター

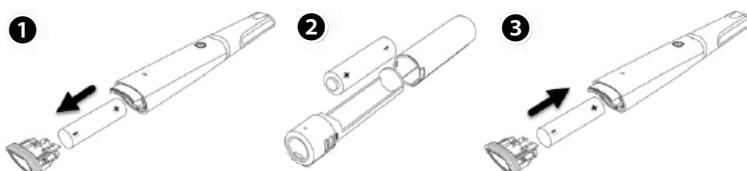
- ・緑色点灯 : クレードルの電源が入っている状態 または クレードルにスキャナが置かれていない状態
- ・緑色の点滅 : スキャナがクレードルに置かれている状態
- ・オレンジ : 接続不良、温度異常、故障など
- ・消灯 : クレードルの電源が入っていない

注意

- ・スキャナを使用しないときは、スキャナをクレードルに置くこと
- ・スキャナをクレードルに置いて充電するときは、スキャナの端にある溝がクレードルの凸部に引っかかっていることを確認すること
- ・スキャナがクレードルで充電されているとき、スキャナ本体のバッテリーインジケーターは緑色に点滅

⑧ 充電ケース

スキャナの電池残量が少なくなった場合は予備のバッテリーと交換し、充電ケースに差し込み充電を行う



充電ケースインジケーター

緑色点灯 : 電源が接続されているか、充電が完了

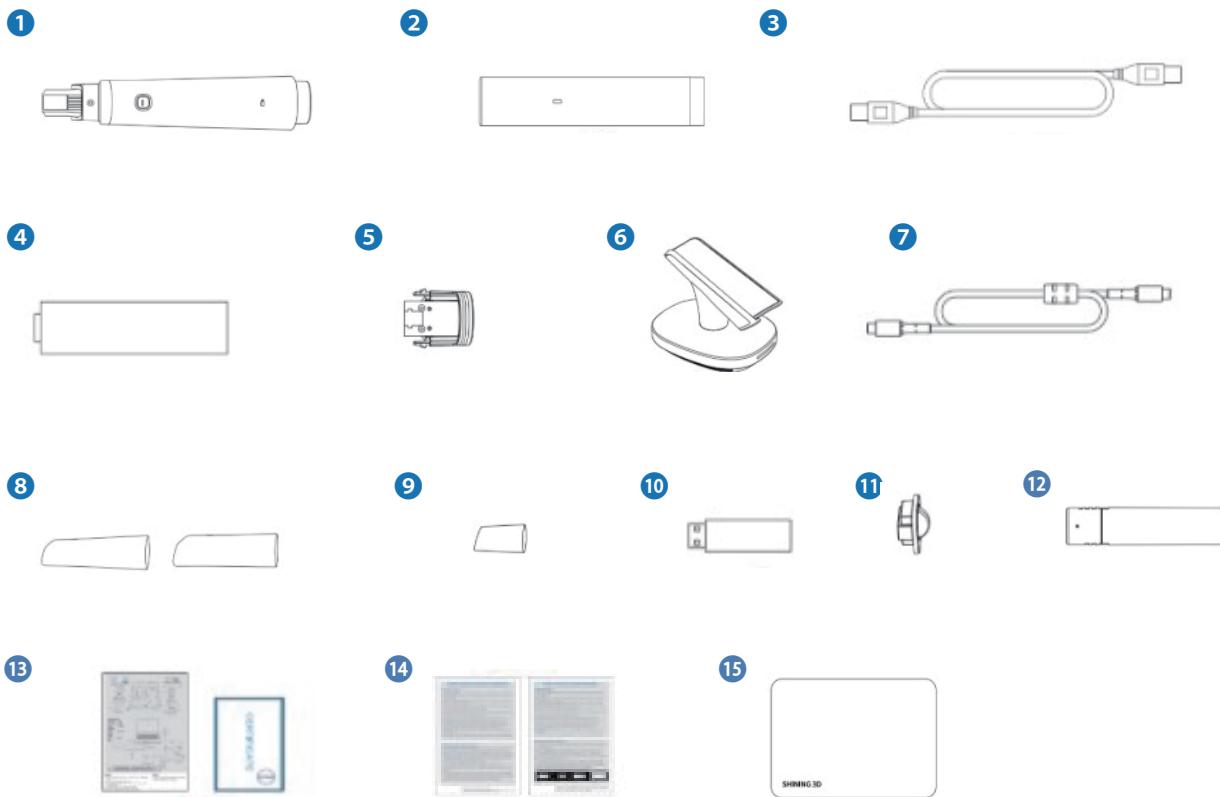
緑色の点滅 : 充電中

消灯 : 電源が接続されていない

注意

- ・バッテリーを水に浸したり、濡らしたりしないこと
- ・スキャナを長期間使用しない場合は、バッテリーを取り出して保管すること
- ・バッテリーを叩いたり、投げたり、物理的な衝撃を与えないこと
- ・バッテリーのケーシングに釘などの鋭利なもので穴を開けたり、ハンマーで割ったり、踏んだりしないこと
- ・電池が液漏れして電解液が目に入った場合は、擦らず綺麗な流水ですすぎ、すぐに医師の診察を受けること
電解液をそのままにしておくと、目を傷める原因になる

⑨ アクセサリー



- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| ① 「スキャナ本体」 × 1 | |
| ② 「キャリブレータ」 × 1 | : キャリブレーションを行うアクセサリー |
| ③ 「USB ケーブル」 × 1 | : キャリブレーターと PC を接続する |
| ④ 「バッテリー」 × 2 | |
| ⑤ 「バッテリーカバー」 × 1 | |
| ⑥ 「クレードル（台座）」 × 1 | : スキャナを置く台 |
| ⑦ 「Type-C ケーブル」 × 2 | |
| ⑧ 「スキャンチップ」 × 6 | : Big 2 本、Standard 3 本、Mini 1 本 |
| ⑨ 「プロテクションキャップ」 × 1 | : ゴミやホコリ、塵の侵入を防ぐ |
| ⑩ 「USB ドングル」 × 1 | : ソフトウェアパッケージ内蔵 |
| ⑪ 「ダストカバー」 × 1 | : キャリブレーターのカバー |
| ⑫ 「充電ケース」 × 1 | |
| ⑬ 「クイックガイドと品質認証」 | |
| ⑭ 「消毒ガイドライン」 × 1 | |
| ⑮ 「パッケージボックス」 × 1 | |

付属品の注意

- ・本製品に付属していない、または弊社が推奨していないものを使用すると、耐久性の低下など、デバイスに影響を与えることがある
- ・指定外の周辺機器、付属品、ケーブル等は、漏電や接続の安全性を損なう可能性があり、保証も無効である

③ 設置方法

① ソフトウェアプログラムのインストール方法

以下の手順に従って、ソフトウェアプログラムのインストールを行う
＊スキャナを PC に接続する前にソフトウェアのインストールを終わらせる

- ・付属の USB ドライブをコンピュータの USB ポートに差し込む
- ・IntraOralScanVX.X.X.X.exe というファイルをデスクトップへコピーする
- ・コピーし終わったら、ダブルクリックで立ち上げる
- ・[IntraOralScan InstallShield Wizard] ウィンドウが表示され、インストールを進める
- ・言語、設置場所等を指定しながら、インストールを進める
- ・インストールが終了後、下記 3 つのアイコンが表示される



Dental
Launcher



S3D_
TeamViewer



Dental
Viewer

② アカウントの作成方法

- ・デスクトップで DentalLauncher を起動する
- ・①をクリックし会員登録をする



▶

パスワードログイン | 認証コード

パスワード保存

パスワードをお忘れですか?

ログイン

① 新規会員ですか？ クリックし登録に進んでください。

プライバシーポリシー

▶

新規会員登録

個人情報を保護してください。プライバシーポリシー

登録

・情報を入力し会員登録を完了する

③ ログイン方法

- ・DentalLauncher 初期画面を開く
- ・パスワードログイン又は認証コードのどちらかでログインする
- ・初期ログイン時には、所属機関を登録または職員として機関に加入する

パスワードログイン | 認証コード

パスワード保存

パスワードをお忘れですか?

ログイン

プライバシーポリシー

パスワードログイン | 認証コード

送信

ログイン

プライバシーポリシー

機関に参加または機関生成

管理者

機関登録 >

職員

機関に加入 >

11

④ スキャナの接続

*使用前に

スキャナチップ、スキャナ本体及びクレードルが適切に洗浄・消毒または滅菌されていることを確認する
スキャナの先端に傷や破損がないか確認する

*ソフトウェアのインストールが終了後スキャナを PC に接続する

1. スキャンチップの取り付け

- ① スキャナの先端を親指と人差し指で両側からしっかりと持ち、
先端を下向きにしてゆっくりとスキャンチップを取り付ける



- ② 取り外す際は、スキャナの先端を持ち
ゆっくりとスキャンチップを引っ張る
※無理やり外すと破損することがあります



2. 接続

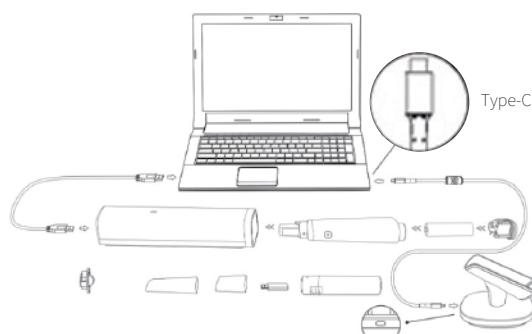
- ① スキャナ本体からプロテクションキャップを取り外し、
スキャンチップをしっかりと装着する



- ② スキャナケーブルを Type-C ポートに接続



Aoralscan Elite



Aoralscan Elite Wireless

- ③ デスクトップの「DentalLauncher」のアイコンをクリックし、
ソフトウェアを起動する

⑤ スキャナの切断

・ Elite

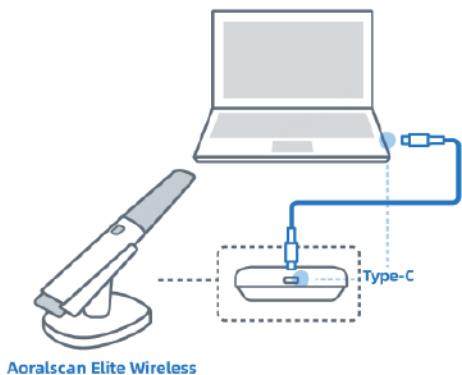
- ① 「DentalLauncher」 ソフトウェアを閉じる
- ② スキャナ本体のワイヤーケーブルを PC から切断する

・ Elite Wireless

- ① 「DentalLauncher」 ソフトウェアを閉じる
- ② クレードルのケーブルを PC から切断する

⑥ ペアリング設定 / Elite Wireless

- ① クレードルをケーブルで PC に接続する
- ② 図に示すようにスキャナーをクレードルに置き、デバイスの自動ペアリングを完了する



- ③ デバイスのペアリング後、デバイス情報をクリックして デバイス情報を確認できる

⑦スキャナの承認

- ①スキャナの初期使用時にソフトウェアを開くと、デバイスの承認が要求される。メッセージが表示されたら、「はい」をクリックする。



- ②「認証状況」ページが開いたら、ユーザー情報を入力し「活性化」をクリックする。



- ③会社名および機関種類を入力し、「確認」をクリックする。
*初期認証のときはオンラインの状態で行なう



③ 承認期間の延長

*一般ユーザーの場合は「制限なし」に設定されているため、承認期間の延長は不要

- ・オンラインで承認期間を延長する
 - ①「設定  →情報」をクリックする
 - ②承認期間を選択し（7、15、30、90日、制限なし）「適用」をクリックする
 - ③「残りの日数」に「承認中」と表示される
 - ④製造元の技術管理者が確認したら、次回ソフトウェアを開く際に承認期間が更新される



- ・オフラインで承認期間を延長する

- ①「設定  →情報」で「オフライン有効期間延長の申請」をクリックする
- ②承認期間を選択し（7、15、30、90日、制限なし）「適用」をクリックする
- ③「エクスポート」をクリックすると、「DEVICE SN.C2v file」を保存できる
- ④「DEVICE SN.C2v file」をインターネットのできるPCにコピーし、カスタマーサポートに送信する
- ⑤承認後「.V2c file」を受信し「オフライン有効期間延長の申請」インターフェースで「インポート」をクリックし、ファイルを読み込む
- ⑥「残りの日数」が更新される



⑨ スキャナキャリブレーション

スキャンデータの精度を保つために、スキャナのキャリブレーションを定期的に行うことをお勧め

下記の場合には、都度キャリブレーションを行うこと

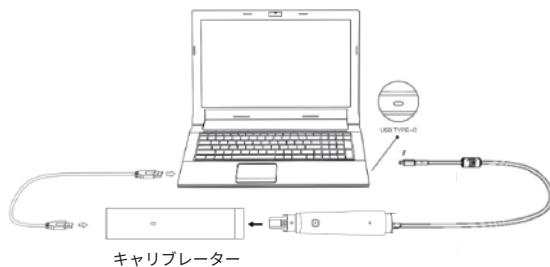
- ・初回使用時
- ・スキャナを一定期間（2週間程度）使用時
- ・スキャナを落下させたり、衝撃を与えた場合

*未使用時にも1ヶ月に1回はキャリブレーションを行うこと

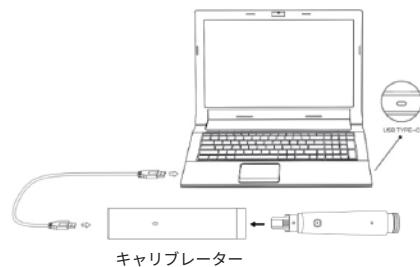
- ・キャリブレータの接続

- ① スキャナをPCに接続し、電源が入る状態にする
- ② 付属のキャリブレータ用USBケーブルをキャリブレータに接続し、片方はPCのUSBポートに接続する
- ③ スキャンチップを取り外し、スキャナ本体をキャリブレータに装着する

Elite

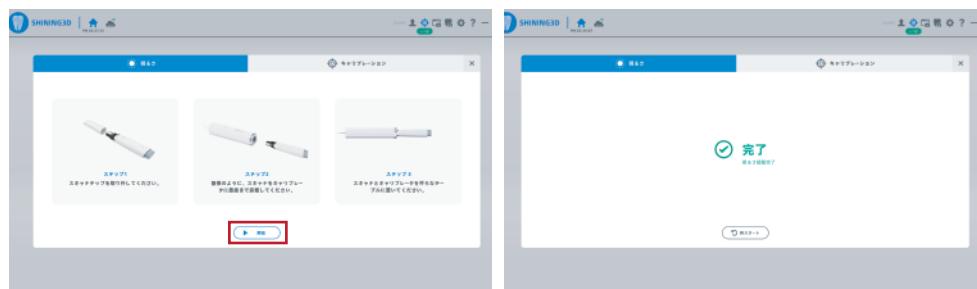


Elite Wireless

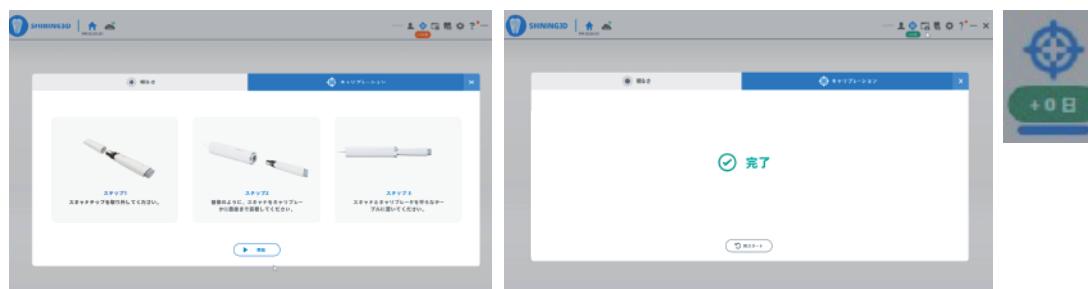


- ・明るさ調節およびキャリブレーションの実行

- ① デスクトップのDentalLauncherソフトウェアを起動し右上の⚙️をクリックする
 - ② インターフェースで「明るさ調節」を選択、「開始」をクリックし明るさ調節を行う
- *明るさ調整は3ヶ月に1回行うことをお勧め

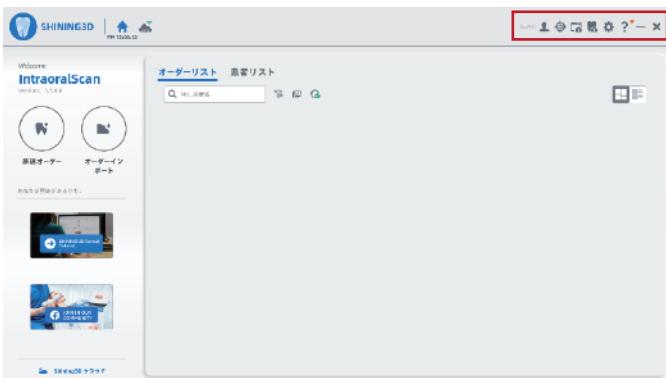


- ③ インターフェースで「キャリブレーション」を選択、「開始」をクリックしキャリブレーションを行う
- ④ 完了すると右上のメニューに最終キャリブレーションからの経過日数が表示される



① 初期インターフェース

デスクトップの DentalLauncher ソフトウェアを開く



・アイコン説明

- ・ユーザー : プロファイルの設定およびパートナーを管理する
- ・キャリブレーション : キャリブレーションのインターフェースを開く
- ・設定 : 「オーダー設定」「スキャン設定」「バージョン情報」を確認できる
- ・ヘルプ : 遠隔支援やお問い合わせ、マニュアルの確認ができる
- ・スクリーンショット : 「画面録画」「スクリーンショット」「スクリーンショットの検索」ができる
- ・内視鏡 : 内視鏡の様子を確認できる

② オーダー前の設定

- ・「設定 」をクリックし、オーダー情報を設定することができる

① 一般

- ・言語 : インターフェース言語を設定できる 初期設定はソフトウェアのインストール時に選択された言語である
- ・デフォルト診察タイプ : オーダー生成時に初期設定される歯科タイプを「補綴物」「インプラント」「矯正」「その他」「口腔内 フォトグラメトリー」「義歯（デンチャー）」から選択
- ・歯牙表記法 : 「FDI 方式」または「ユニバーサル方式」表記システムを選択 初期設定は「FDI 方式」になっている
- ・オーダー保存経路 : 基本設定では、DentalOrder ファイルはインストールパッケージの保存先になっている
- ドライブ C : ドライブに保存されている場合、ソフトウェアは C:DentalOrder となる
- ・exocad の経路 : exocad と IntraoralScan を連動させるため、exocad の保存先を入力する
- ・診断模型のスキャン方式 : 「歯列級による選択」「歯の位置による選択」から選択

② オーダー名の形式

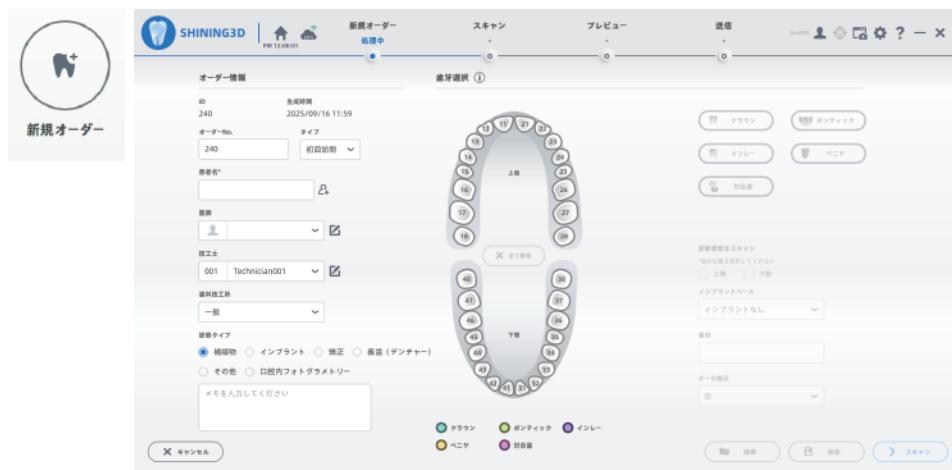
ファイル名は、「生成日_医師コード_オーダー ID」で保存される。ファイル名の形式を変更する場合は、追加したい項目を次々と選択することで「先に選択された項目→後に選択された項目」の順でファイル名の形式を設定できる

③ フォーマット保存

- ・「exocad データを保存」: オーダーの保存時に '*.dentalProject」 ファイルが保存され、exocad でオーダーをインポートすることができる。初期設定は ON になっている

③ 新しいオーダー生成

初期インターフェースで「新しいオーダー生成」をクリックしオーダー作成ページを開く



①「オーダー情報」：オーダー No、患者情報、医師、技工士、歯科タイプを選択する

②「歯牙選択」：歯を選択する。修復タイプをクラウン、ポンティック、インレー、ベニヤ、対合歯から選択
クラウンを選択した場合、インプラントベースタイプを選択できる
2本以上を修復タイプ（クラウンまたはポンティック）として選択した場合、
2本の歯の間にグレーの○が表示される
○をクリックすると青色に変わり、ブリッジを選択できる



診断模型をスキャン：スキャンする位置を選択する

「インプラントベース」、「素材」、「診断模型をスキャン」の設定を選択する

「保存」：入力した内容を保存する

「スキャン」：スキャンインターフェースに入る

「検索」：オーダーが保存されているフォルダが開く

③ 「ショートカットキー」

左クリック：歯を選択

右クリック：歯の選択を解除

全て解除：定義された内容を解除する

「Shift+ 左クリック」：以前に設定した補綴タイプをコピーし、

以前選択した歯牙から新しく選択する歯まですべての歯に適用

④「歯科タイプ」：該当するものを選択する

選択したものによって、スキャン後に使用できるアプリケーションが異なる



「インプラント」



「義歯」



「その他」



「矯正」



「補綴」

④ オーダーインポート

初期インターフェースで「オーダーインポート」をクリックする



「*.inProject」または「*.dentalProject」ファイルを選択する

IntraoralScan ソフトウェアで保存されたオーダーや exocad オーダーのインポートに対応

スキャンしたオーダーをインポートし、「スキャン」を選択でメッセージが表示

最後にスキャンしたデータを読み込むには、「はい」を、

再スキャンする場合は、「いいえ」をクリック



⑤ オーダーリスト

作成したオーダーやインポートしたオーダーを、ソフトウェアの初期インターフェース上でカードモードまたはリストモードで表示する。 をクリックして、オーダーの表示モードを切り替える

オーダー情報には、患者情報、オーダーステータス、作成時刻を含む

オーダをダブルクリックすると、オーダ情報インターフェースが表示される

・カードモード

・リストモード

オーダーNo.	患者名	歯科タイプ	オーダー状況	生成時間	操作
252	test	補綴物	送信待ち	2024/07/03 13:32	
250	test	補綴物	スキャン待ち	2024/06/28 19:40	
225	test	補綴物	承認待ち	2024/06/20 14:26	
247	test	取り外し式歯齒	スキャン待ち	2024/06/14 14:31	
246	test	補綴物	送信待ち	2024/06/14 14:08	
245	test	インプラント	スキャン待ち	2024/06/14 11:50	
242	test	補綴物	送信待ち	2024/06/04 12:34	
212	test	補綴物	スキャン待ち	2024/05/30 15:19	
211	test	補綴物	スキャン待ち	2024/05/30 15:12	
210	aaa	補綴物	送信待ち	2024/05/30 14:52	
205	test	矯正	送信待ち	2024/05/27 20:09	
204	test	補綴物	承認済み	2024/05/27 19:56	

- ・オーダー検索 : オーダー番号または患者名を検索ボックスに入力し検索できる
- ・オーダーフィルター :  をクリックするとフィルター項目が表示される。ステータス、ソースタイプ (IntraoralScan または exocad)、作成期間でオーダーを絞り込むことができる
「クラウドオーダーを隠す」を選択するとクラウドに保存されているオーダー (ローカル PC にデータなし) が非表示になる



・オーダーステータスの種類

- 「スキャン待ち」 : スキャンされていない状態
 「送信待ち」 : スキャンされているが、クラウドへアップロードされていない状態
 「承認待ち」 : オーダーデータがクラウドにアップロードされ、技工所での受信を待つ状態
 「承認済み」 : 技工所でオーダーを承認した状態
 「拒否」 : 技工所でオーダーを拒否した状態
 「アップロード済み」 : 自分のクラウドにオーダーを送信している状態
 「キャンセル済み」 : オーダーはクラウドへ保存され、歯科医師がオーダーをキャンセルした状態
 歯科医師はオーダーが技工所で承認される前はキャンセルできる

- ・複数選択モード :  をクリックすると複数のオーダーを選択することができる

・操作アイコン

- ・  クラウドから PC にオーダーデータをダウンロードする
- ・  現在選択されているオーダー情報とスキャンデータをコピーし新しいオーダーを作成する
- ・  現在選択されているオーダーをオーダーリストから削除する
保存されているオーダー情報とスキャンデータを削除するかはユーザーが選択できる
- ・  現在選択されているオーダー情報とスキャンデータをクラウドにアップロードする
- ・  アップロードされているが、承認されていないオーダーをキャンセルするときに送信ページで操作する

⑥ オーダーデータの確認

① クラウドのオーダー

- ・ クラウド上のオーダーデータはオーダーリストのカードモードで  アイコンが付いて表示される
オーダーリストではダウンロードのみ可能なオーダーが表示される
- ・ クラウド上のオーダーはダウンロードしローカル PC で閲覧・編集することができる

② ローカルオーダーデータ

- ・ *.dentalProject : exoCAD のオーダープロジェクト
- ・ *.inProject: *.inProject : Shining 3D intraoral scanning オーダープロジェクト
- ・ *.stl : テクスチャなしの 3D データ
- ・ *.obj : テクスチャ付きの 3D データ、*.mtl/*.jpg と組み合わせて使用する
- ・ *.beb : Shining 3D 社独自フォーマットの 3D データ
- ・ *-margin.xyz : 抽出したマージンラインのデータ
- ・ Project : スキャンプロジェクトのデータ、一時的に保存

⑤ スキャン画面・スキャン方法

① スキャン前の設定

*インターフェースで「設定 」をクリックし、オーダー情報を設定することができる



① 一般

- ・モーションセンシングメニュー : モーション機能。初期設定は ON になっている
- ・明るさ自動調整 : カメラの明るさを調整し、鮮明なイメージで採得。初期設定は ON になっている
- ・HD スキャン : 支台歯の領域を選択することで、後処理データがより細かく詳細に処理される
初期設定は OFF になっている
- ・データの一時保存 / 追加スキャン許可 : スキャン時に RAW データが保存され、スキャン終了後に追加スキャンができる
初期設定は ON になっている
- ・未スキャンエリアグレー表示 : 未スキャン領域が自動で埋まる。最終の obj データでは灰色に表示される

- ・咬合自動最適化 : ON にすることで、咬合データが自動的に調整・最適化される
必要に応じて、咬合位置合わせの段階でキャンセルも可能
初期設定は ON になっている
- ・持ち上げスキャン開始 : スキャナを持ち上げるとスキャン開始ができる設定に変更できる

② カスタム設定

- スキャン順番 : スキャンの優先順位を変更できる
- スキャン視点 : スキャナの視点が変更できる

③ カメラ

カメラウィンドウの上下左右の余白の値を手動で設定できる。 カメラのマージン値を復元

④ 音楽検索オプション

スキャン進行音の ON/OFF、再生される曲を選択する

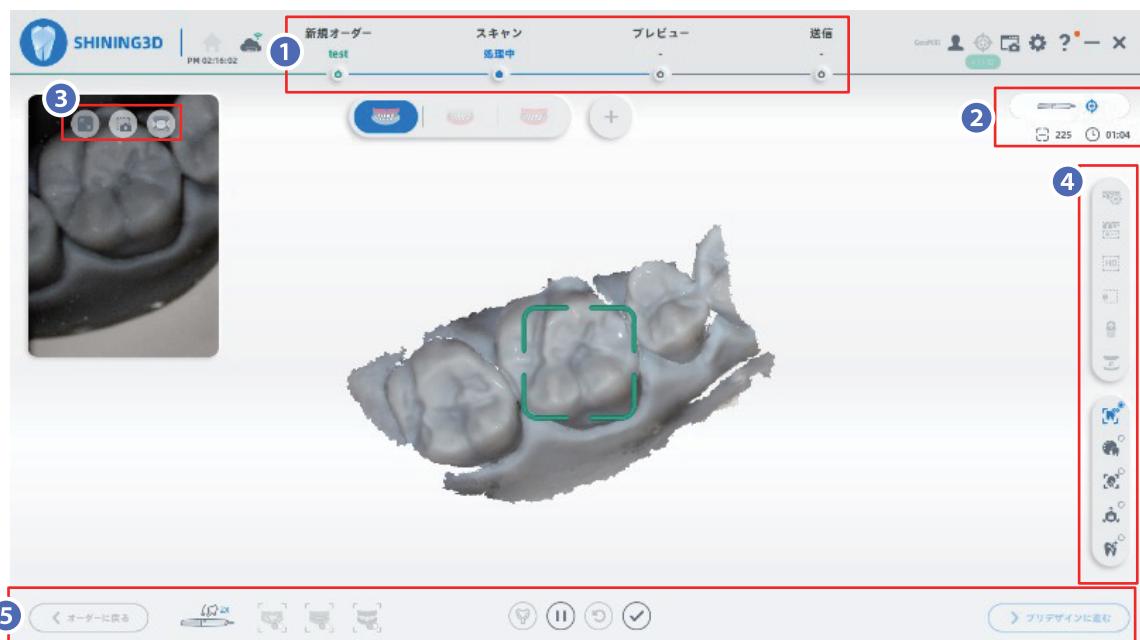
⑤ PC パフォーマンステスト

- テスト開始 : PC パフォーマンステストを行い、適切なスキャン速度を自動で設定する
- 設定リセット : PC パフォーマンステストの結果をリセットする

② スキャンインターフェース

オーダーを生成・保存した後、対象の歯をスキャンすることができる

スキャナが接続されていない場合は、エラーメッセージが表示され、スキャナの確認と再接続が必要になる



メニュー右上にスキャン状況が表示される



① ナビゲーションバー

「新規オーダー」「スキャン」「プレビュー」「送信」のステップが表示され、各ステップをクリックすることで他の段階へ切り替えることができる

② スキャン状況・スキャンしていないときのデバイス状態



⌚ 0 · スキャンしたフレーム数：最大は 3,000 フレーム。2,500 フレームを過ぎるとスキャンメッセージが出る

⌚ 00:03 · スキャンおよびデータ処理時間

③ カメラビュー

・拡大 / 縮小 : 画像ウィンドウが拡大する

・スクリーンショット : 画像ウィンドウに表示されている画像をスクリーンショットする
画像は "Endoscopelmg" フォルダに保存される

・スキャン表示 : スキャン時にカメラビューに現在の未スキャン領域が紫色で表示される



⑤ スキャン画面・スキャン方法

④ 機能



編集

: 削除するデータを選択する



- ① 回転 : 回転モードに入り、模型を回転させることが可能
アイコンをもう一度押すと回転モードがキャンセルされる
- ② ブラシ : マウスホイールで模型の拡大、縮小が可能。左キーを押しながらスキャンデータに
ブラシをかけると青く表示され、マウスキーを離すとブラシをかけた部分が削除される
 を左右に動かすとブラシの大きさが調整される
- ③ 自由選択 : マウスの左キーを長押しで消したい部分を設定し、マウスを離すと選択した部分が削除される
- ④ 前へ : 直前の操作をキャンセルする
- ⑤ やり直す : キャンセルした操作をやり直す
- ⑥ キャンセル : スキャンデータ削除をキャンセルし、編集機能を終了する
- ⑦ 確定 : 部分削除したデータを確定し、編集機能を終了する



単独データ削除 : メインのデータと繋がっていない単独データをクリックして削除する



HD エリア

: HD エリアを選択すると後処理中により高い解像度で処理する。
テクスチャー機能と併せて使用するとより効果がある。「設定 - スキャン設定」で
HD スキャンを選択すると上下顎のスキャンが終わったとき HD エリアを選択できる

部分ロック

: 一時停止時にロックしたい部分をクリックすると追加スキャンで上書きされない



- ① 回転 : 回転モードに入り、模型を回転させる。アイコンをもう一度押すと、回転モードをキャンセル
- ② ブラシ : ブラシをかけた部分がすべてロックされる
 を左右に動かすことでのブラシの大きさを調整できる
- ③ 消しゴム : 部分ロックを解除し、部分ロックを再設定することができる
- ④ 逆を選択 : 前に選択した部分以外をロックエリアとして選択する
- ⑤ クリア : 設定された全ての部分を解除する
- ⑥ 前へ : 直前の操作をキャンセルする
- ⑦ やり直す : キャンセルした操作をやり直す
- ⑧ キャンセル : 設定した部分ロックをキャンセルして部分ロック機能を終了する
- ⑨ 確定 : 設定した部分ロックを確定して部分ロック機能を終了する



アンダーカット : スキャンが一時停止しているときにクリックすると歯のアンダーカットが表示される



① ブラシ

: アンダーカットの生成範囲を設定

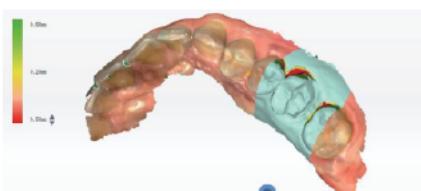
を左右に動かすことでのブラシの大きさを調整できる

② アンダーカットの計算

: 現在画面の方向からのアンダーカットを計算

③ 終了

: アンダーカット機能を終了する



青色の矢印 : ビューの方向

薄緑 : アンダーカットの範囲

緑 : 見える範囲

赤 : 見えない範囲

⑤ スキャン画面・スキャン方法



- ・上下顎交換 : スキャン終了後、または後処理が完了した後に、上顎と下顎のデータを入れ替える
スキャン中に上顎と下顎の流れが逆になった場合に使用する



- ・テクスチャー : データのテクスチャーを表示の設定、初期設定はテクスチャーを表示する



- ・データ指示 : ON になるとスキャンデータの品質が良くないところがグレー色で表示される
グレー色がカラーになるまでスキャンする



- ・AI スキャン : 口腔内スキャンに使用。このボタンをクリックすると、口腔内スキャンで
頬側や舌側のデータ、軟部組織などの雑多なデータが自動的に削除される



- ・視点ロック : 固定された視点でスキャンが行われ、自動視点追跡機能はオフになる
初期設定ではオフになっている



- ・メタルスキャン : 金属をスキャンする場合は、このボタンを選択するとスキャン速度が向上する



⑤ スキャン進行



- ・オーダー画面に戻る

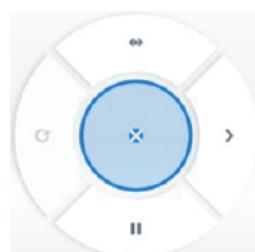


- ・プリデザインへ進み、モデルのプレビューや座標調整、咬合チェック、
マージンライン抽出などを行う



- ・スキャナ本体のボタンを2回押すと「IMU アイコン」が表示されモーション機能が始まる

IMU アイコン : スキャナを上下左右に動かして操作。選択されたボタンは青色で表示
ボタンの全体が青色で選択



- ・スキャンされたモデルを回転しながら確認する
- ・前のステップへ移動。スキャンデータがある場合は
アイコンが表示され選択するとスキャンデータが削除される
- ・次のステップへ移動
- ・モーション機能の終了
- ・スキャンを一時停止または再開

- ・モード選択



口腔内モード ON



無歯顎モード ON



口腔内 / 無歯顎モード OFF

印象スキャン：印象データとメインデータを組み合わせる



先にデータ編集機能を使用し、スキャンする領域の干渉データのクリアを推奨

また、エリアロック機能により、ロックされていないスキャンのみをスキャンすることも可能



・開始



・印象リセット：スキャンしたデータを削除



・印象キャンセル：印象スキャンをストップする



・印象完成：スキャンしたデータを確定させる



・開始



・一時停止（スペースキーで操作可能）



・リセット：スキャンしたデータを削除



・スキャン終了（スキャナ本体ボタンを3秒以上長押しまたはスペースキーを長押しする）

追加マッチング：インポートまたはスキャンしたアバットメントデータをスキャンしたデータとマッチングすることが可能



③ 上下顎スキャン

- 直射日光を避け、口腔内をスキャンする
- スキャナを歯牙の表面に向けしっかりと握り、スキャナの先端を歯牙から 2~8mm 以内に保つ
- スキャナをゆっくり動かし、同時に画面でスキャンデータを確認し、正確にスキャンされているか確認する

スキャン距離



スキャン方法



①上顎をスキャンする前に、まず画像ウィンドウの画像表示が正常に写っているか確認する

② またはスペースキーをクリックしてスキャンを進める

③ またはスペースキーをクリックしスキャンを一時停止すると、

頬側と舌側のデータが削除されスキャンデータを明確に確認することができる

*スキャンチップを歯から離したり、スキャンが一時停止したりすると

表示される緑色のエリアは正常にスキャンされていないため、未スキャン領域を確認し再スキャンを行う

⑤ スキャン画面・スキャン方法

- ④ 再スキャンをしたい場合には、⑤ をクリックする

以下のメッセージが出たら「はい」をクリックし、再スキャンを進める



- ⑤ スキャンや後処理が完了したとき、スキャンインターフェースを終了せず

スキャナを歯牙に近づけると追加スキャンをすることができる



- ⑥ スキャン完了後、完了ボタンをクリックするか、スペースバーを長押しでデータを保存する

下図のように、✓ が表示されるとスキャン処理が終了したことを示す



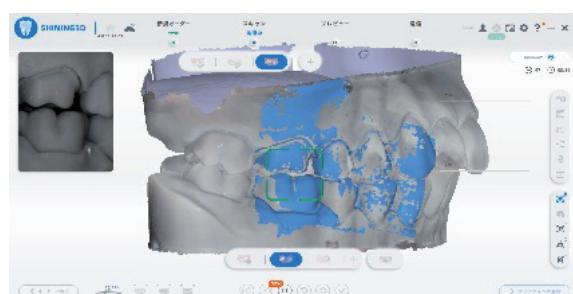
④ マッチングについて

- ① 下顎のスキャンが終わったら、咬合スキャン画面が自動的に表示される

- ② ⑨ またはスペースキーを押してスキャンを開始する。一定のスキャンデータが生成されたら
ソフトウェアが自動的に咬合マッチングを行う



マッチング前



マッチング後

⑤ スキャン画面・スキャン方法

- ③ 上顎と下顎のデータが正常にスキャンされた後、(II) またはスペースキーを押してスキャンを一時停止し
咬合マッチングの結果を確認する



- ④ (✓) をクリックまたはスペースキーを長押しすると、データが後処理される

咬合スキャンでは、顎全体をスキャンする必要はない

- ・左右の臼歯の咬合をスキャン
 - ・左右の臼歯と前歯の咬合をスキャン
- 上記いずれかの方法で顎全体の咬合スキャンデータを取得できる

マッチングが終わったらスキャンを終了する。バイトスキャンの最大フレーム数は各スキャンあたり 500 フレームで、500 フレームに達するとソフトウェアは強制的にスキャンを終了する

- ⑤ ダイナミックバイトスキャンをする場合は をクリックする

咬合スキャンを先に行ってからダイナミックバイトスキャンを始める

咬合スキャンの位置でダイナミックバイトスキャンを行う

上顎と下顎の中央にスキャンチップを合わせスキャンする(図①)

ダイナミックバイトスキャンをするときは患者に側方運動してもらう

① をクリックしダイナミックバイトスキャンのインターフェースに入る

② をクリックしスキャンを始める

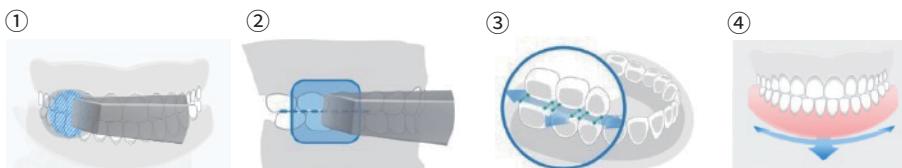
③ 患者は歯を噛んでバイトを維持したまま、下顎を前後、左右に動かす

④ スキャンが終わったらダイナミックバイトが再生される

⑤ (✓) をクリックしスキャンを保存、終了する

プリデザイン段階の「ダイナミックバイト」でデータの確認ができる

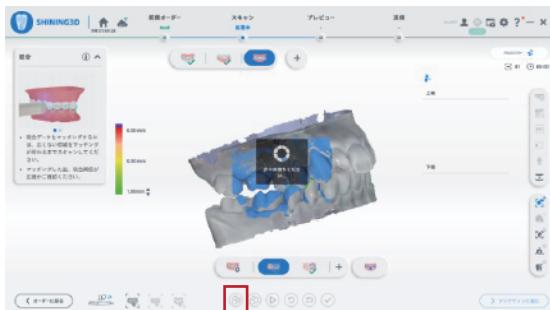
- ・スキャンの流れ



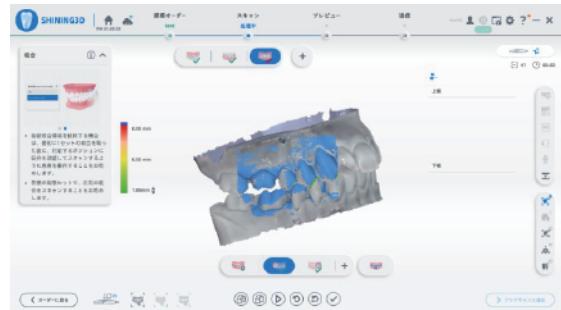
⑤ 咬合スキャン



スタティック(自動)マッチング：自動で咬合マッチングを行う



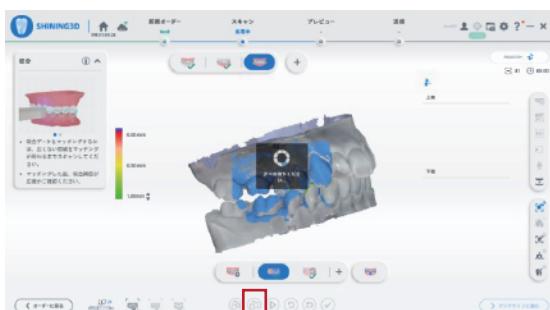
① をクリックする



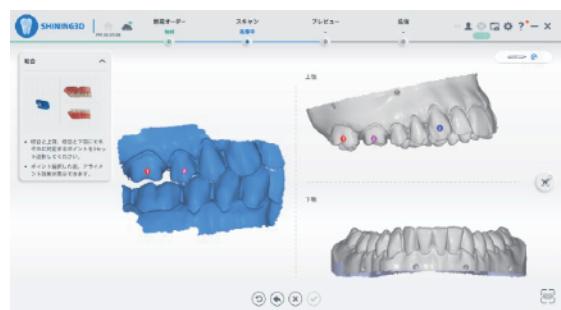
② 自動で咬合マッチングが完了する



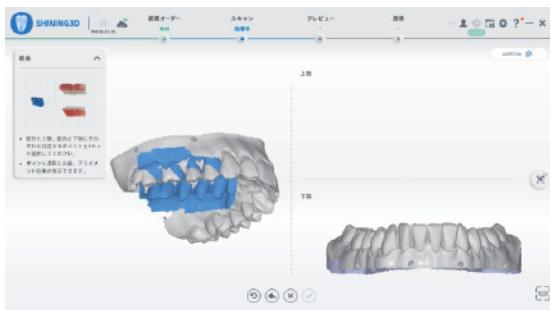
手動マッチング：3点のマーカーを用いて、手動で咬合マッチングを行う



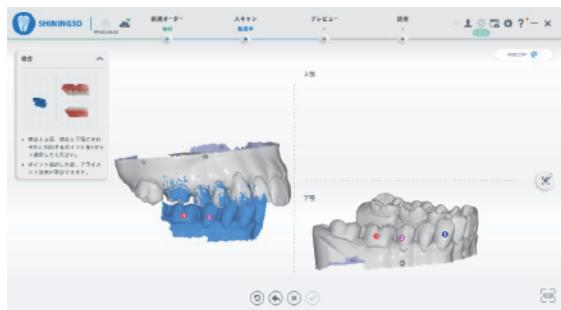
① をクリックする



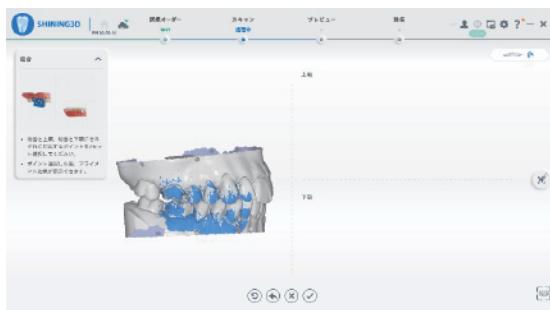
② 上顎の歯牙に任意でそれぞれ3点マーカーを付ける



③ 上顎のデータのマッチングが完了する



④ 下顎の歯牙に任意でそれぞれ3点マーカーを付ける



⑤ 上顎のデータと下顎の咬合マッチングが完了する

⑥ インプラント顎スキャン

- ・単独のインプラント歯

① オーダー生成時、診察タイプ「インプラント」を選択



② 対象インプラントがある顎を、口腔内スキャンボディなしでスキャンする

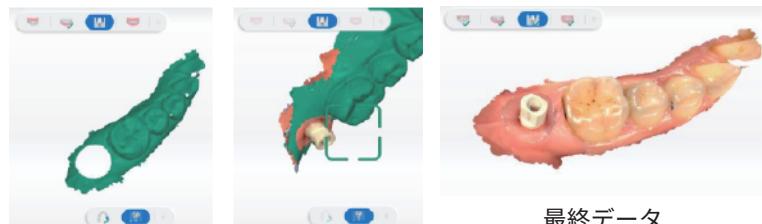
③ ②のスキャンが完了すると、スキャンボディのスキャン画面が表示される

④ インプラントと丸印「○」が表示されたら、インプラント部分をダブルクリックし、削除する



⑤ スキャンボディをインプラントの位置に締結する。

をクリックし、スキャンを進める

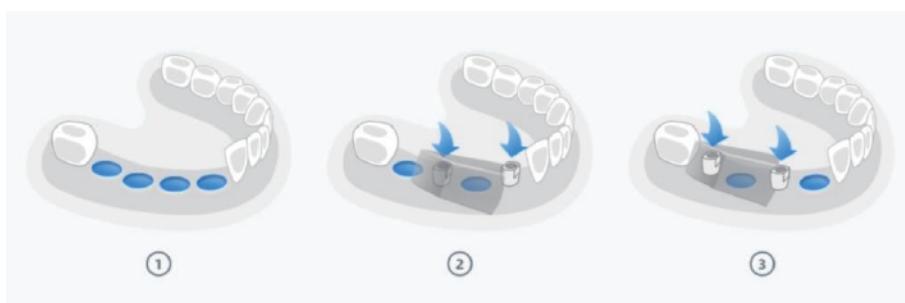


最終データ

*対象インプラントがある顎のスキャンデータはロックされ、くり抜いた部分のスキャンが追加される

- ・複数のインプラント歯

① 複数のインプラント歯をスキャンする場合、隣接しないスキャンボディをグループにし、スキャンを行う



② インプラント部分を削除するとき、周辺の歯肉データをすべて削除する

③ 最初にスキャンするインプラント位置にスキャンボディを締結し、スキャンする

④ 最初のスキャンが完了したら、「一時停止」をクリックした後、+ をクリックし、次のグループをスキャンする



2番目のグループをスキャンしたら、前のグループのデータに追加スキャンはできない

2番目のグループをスキャンすると、最初のグループのデータはロックされ、緑色で表示される

2つ以上のグループをスキャンする場合、前にスキャンしたグループのデータは、同じ緑色でロックされる

⑤ 完了ボタン をクリックして、インプラント顎のスキャンを終了する

インプラント顎のスキャンが完了したら、上顎 / 下顎のスキャンを追加することができる

⑦ 診断模型 (Pre-op) スキャン

- ① オーダー生成時に「診断模型をスキャン」を設定し、オーダーを保存する



- ② スキャンインターフェースでは、「上顎の診断模型→下顎の診断模型→上顎 / 下顎スキャン→咬合スキャン→(支台歯の形成後)→上顎 / 下顎スキャン→咬合スキャン (自動マッチング)」の順番でスキャンを行う
(スキャンの手順は変更可能)



- ③ 形成後の上下顎スキャンの時に丸いブラシが表示されたら支台歯部分をダブルクリックし、削除する
④ ✓ をクリックし支台歯スキャンを進める

⑧ 咬合の優先スキャン

- ① 咬合スキャンを最初に行うことができる

咬合のアイコンに「！」が表示される場合、全顎データのマッチングが完了していない状態

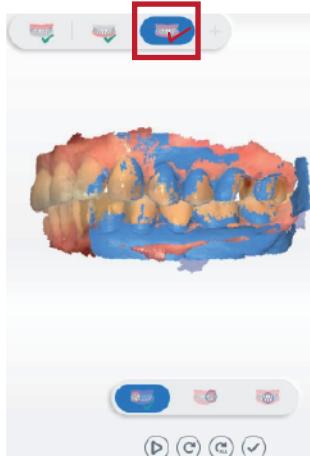


- ② 咬合スキャン後に上顎、下顎スキャンに戻る。上下顎のスキャンを確認して完了ボタンを押す



- ③ 上下顎のスキャンが終わったら咬合スキャンデータと自動マッチングを行う

自動マッチングが失敗したら ✓ が表示されるので、咬合を再スキャンする



⑨ 口腔内フォトグラメトリーのスキャン

- 口腔内フォトグラメトリーのスキャンには、Aoralscan Elite シリーズのデバイスおよびIPG コードスキャンボディキット（別売り）が必要



・オーダー生成

- 新規オーダーでオーダー生成ページを作成する
- 診察タイプで口腔内フォトグラメトリーを選択
- 上顎と下顎のポップアップウィンドウでインプラントタイプをクリックして選択
- オプションでスキャンキャップと診断模型が選択可能
- インプラントシステムを選択（後で選択も可能）
- スキャンをクリックしてスキャン開始 ※インプラントを選択しても反映されない

・コードスキャンボディのデータベースのダウンロード



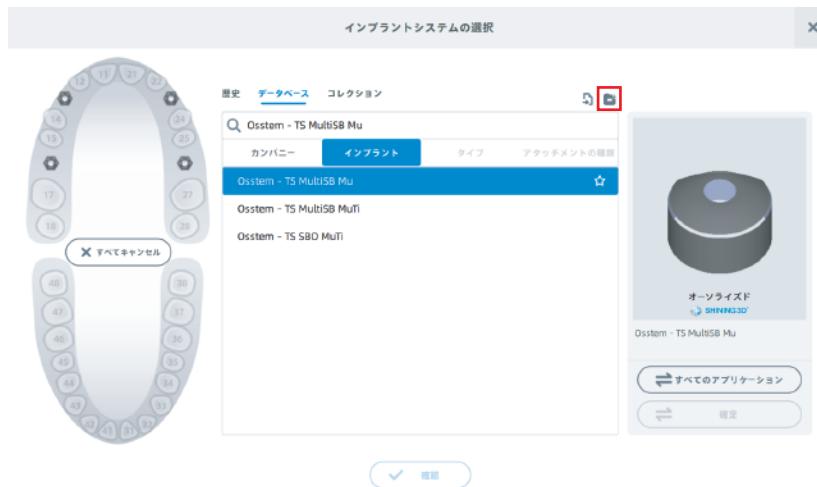
- オーダー生成画面右側に表示されている「コードスキャンボディ」のシリアル番号をクリックすると [選択する >](#) もしくは設定したキットのシリアル番号が表示される

- コードスキャンボディのシリアル番号を入力するか、IPG コードスキャンボディキットの QR コードをスキャンする
- 「ダウンロード」をクリックし、IPG コードスキャンボディの関連情報を確認
- 「確認」をクリック

- コードスキャンボディのデータベースをダウンロードしている場合は、シリアル番号をクリックして使用回数を確認することができる
- 「ダウンロード」をクリックして、他のデータベースをダウンロード
- 製品の精度を確保するため、300 回以内の使用を推奨

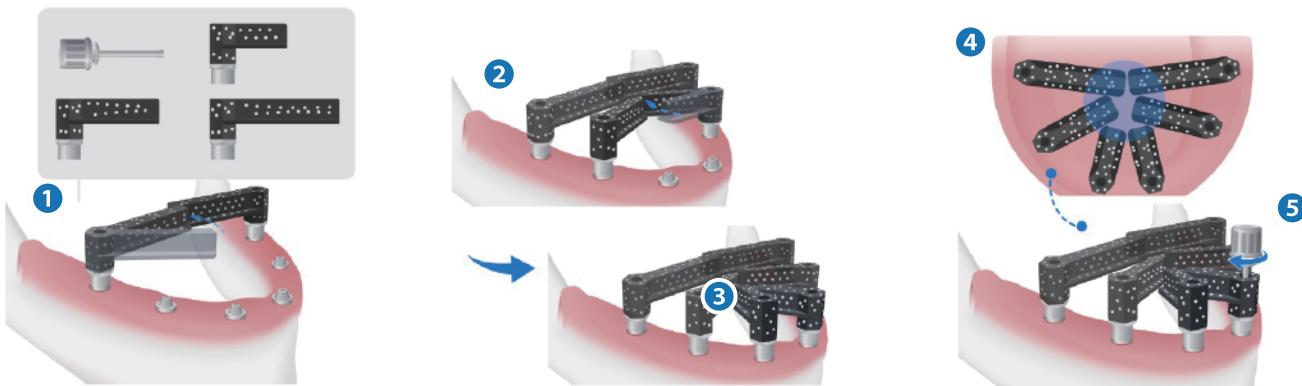
⑤ スキャン画面・スキャン方法

- インプラントシステムの選択



- インプラントの選択をクリックして、インプラントシステムを選択するインターフェースに入る
インターフェースには、インプラントシステムの履歴、データベース、お気に入りリストが表示される
- 歯を選択した後、データベースで製造元の「インプランツタイプ」を選択
 - 特定のインプラントシステムの名前を入力するか、クリックしてローカルデータベースをインポートすることで検索することも可能
インプラントシステムのデータベースをダウンロードするには をクリック
インプラントシステムを選択するときは、クリックしてお気に入りリストに追加可能
- 「確定」をクリック
 - インプラントシステムが複数の歯に適している場合は、「すべてのアプリケーション」をクリック
 - 「すべてのキャンセル」をクリックして、システムの選択を解除
- 「確認」をクリック

- コードスキャンボディの付け方

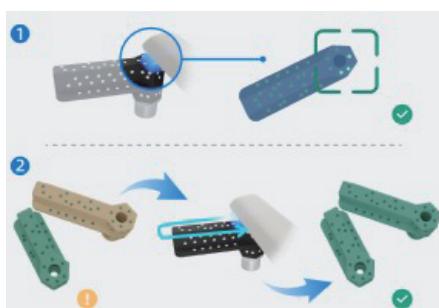


- コードスキャンボディと専用ドライバーを準備
- 適切な長さのコードスキャンボディを対応するインプラントに取り付ける
- コードスキャンボディの端を口蓋側、舌側に集めるようして向きを調整
スキャナウィンドウ内に2つのコードスキャンボディがスキャンできるように配置（スキャンチップ Mini は使用不可）
- コードスキャンボディをドライバーで固定（約10Ncm以内）

コードスキャンボディのスキャン



- ① ソフトウェアに表示される手順に従って、コードスキャンボディ全体をスキャン
スキャンされたスキャンボディ上のマーカーは緑色で表示される
- ② ソフトウェアに表示される手順に従って、各コードスキャンボディを再度詳細にスキャン
- ③ をクリックでスキャン終了



- ・スキャンボディが黄色になっている場合は、アライメントエラーが大きい
- ・この場合スキャンを続ける。位置合わせを成功させるには、
スキャンボディの本体（六面体）上の少なくとも3つの点を特定する必要がある

グループでスキャン

インプラントが接近しており、コードスキャンボディ全体を同時にスキャンできない場合、グループでスキャン可能

- ① 1つのグループをスキャンした後、+ をクリックして別のグループを追加
- ② 削除するコードスキャンボディをクリックして選択する（選択を解除するにはもう一度クリック）
- ③ スキャンされていないインプラントにコードスキャンボディを締結してスキャン
- ④ をクリックしてスキャン終了

※1つのグループのみを追加可能

歯肉アライメント（コードスキャンボディのみを選択した場合）

コードスキャンボディと歯肉の接続部分をスキャンし、データをアライメントする

※スキャンチップを選択した場合、歯肉アライメントは行わない



自動アライメント

スキャンされた上下顎とコードスキャンボディの位置が自動的にアライメントされる。スキャンしたデータは右側に表示される

:アライメント成功

:アライメント失敗

:スキャンしたモデルを表示、非表示にする

手動アライメント

自動アライメントに問題がある場合は、上顎 / 下顎を選択し、をクリックして手動アライメントが可能

① スキャンしたモデルをガイドが示す位置に回転させる

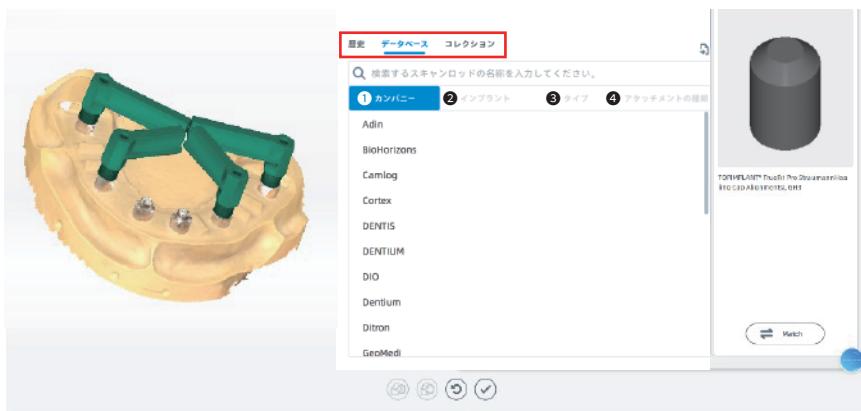
② 左右のモデルで対応するポイントを 3 セット選択

③ エフェクトをプレビュー

- リセット : モデル上のすべての点を削除
- 元に戻す : 最後に選択したポイントを元に戻す
- キャンセル : 変更をキャンセルして終了
- 確認 : 手動配置を確認

コードスキャンボディの変換

① をクリックして変換のインターフェースに入る



歴史 : 過去に使用したデータ
データベース : ①インプラントメーカー
: ②インプラントシステム
: ③タイプ
: ④アタッチメントの種類

② インプラントのシステムを選択

またはスキャンボディの名前を入力し、特定のものを検索

③ コードスキャンボディを確認。すべてのコードスキャンボディは、デフォルトで緑色で選択される



④ 「マッピング」をクリック

⑤ をクリックすると現在の変換が保存され、アライメントに戻る

をクリックするとコンバージョンがリセットされる

スキャンキャップのスキャン

- ① オーダー作成時、スキャンキャップにチェックを入れる



- ② スキャンキャップを取り付けてスキャンを開始

歯肉とキャップのスキャンボディを完全にスキャンする

スキャンされたスキャンキャップには番号が付けられ、歯肉と位置が合う

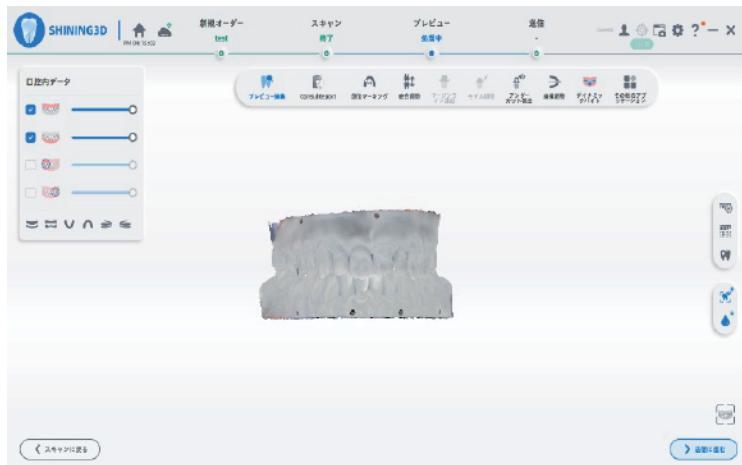
- ③ をクリックしてスキャンを終了

*コードスキャンボディと位置を合わせるには、キャップスキャンボディの数を2つ以上使用する必要がある

⑥ CAD 前の準備



① プレビュー及び編集



編集

: 編集画面に入り、削除するデータを選択できる



単独データの削除

: 歯のスキャンデータから離れている、小さな単独データを簡単に削除できる



未スキャン領域を補正

: 未スキャン領域を埋める、埋める範囲を調整できる



テクスチャー

: スキャンしたものの表面色を取得する



スムーズ

: 荒い部分をスムーズにする



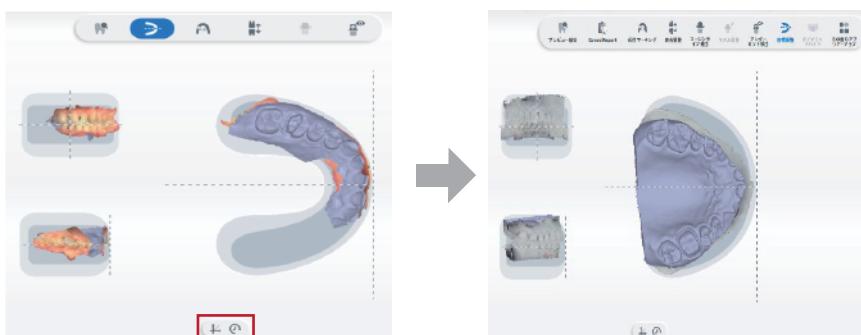
フィットビュー

: スキャンデータの表示サイズを画面サイズに合わせる

AccuDesign 、矯正シミュレーション 、口腔内健康レポート の機能は、デジタル印象採得装置の薬機法承認範囲ではないため臨床では使用できない

② 座標の調整

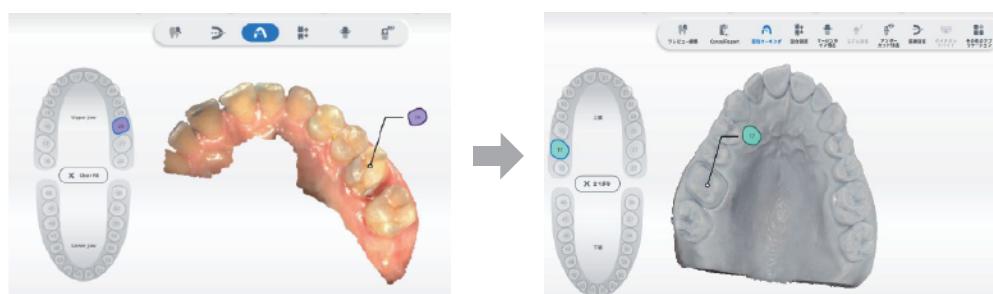
歯頸の座標（X、Y、Z 軸）を調整し、正中を合わせる



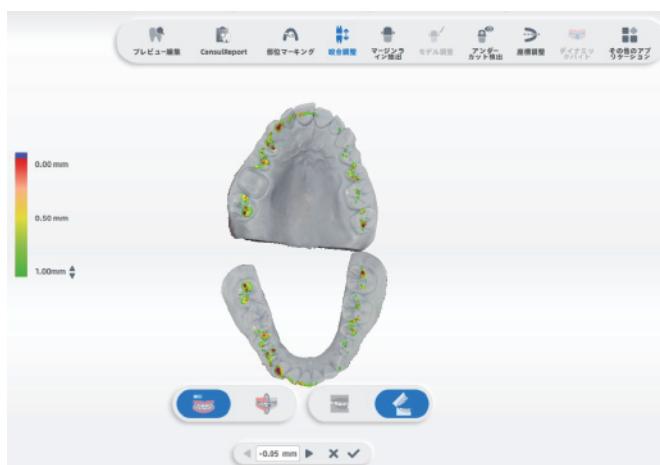
- オートアライン：自動調整を行う。フルマウスモデルに適している
- リセット：調整したデータ位置をリセットし、元の位置に戻す

③ 部位マーキング

オーダー生成時に指定した歯の番号を選択し、スキャンデータ上で歯をダブルクリックする



④ 咬合調整



- 両顎を閉じる 両顎を開く 計算：噛み込み量を計算する
計算された領域にカーソルを移動して値を確認する
- リセット：計算し、調整した咬合パラメーターをリセットすることが出来る
- 調整した咬合パラメータをキャンセルし終了
- 調整した咬合パラメータを保存し終了
- 矢印をクリックすると -0.05, -0.10, -0.20mm のいずれかを選択できる
初期設定は -0.05mm



リボンモード

上顎と下顎の咬合面のズレを調整し、咬合を確認する

スキャンデータの上でダブルクリックすると、そのポイントの咬合隙間が表示される

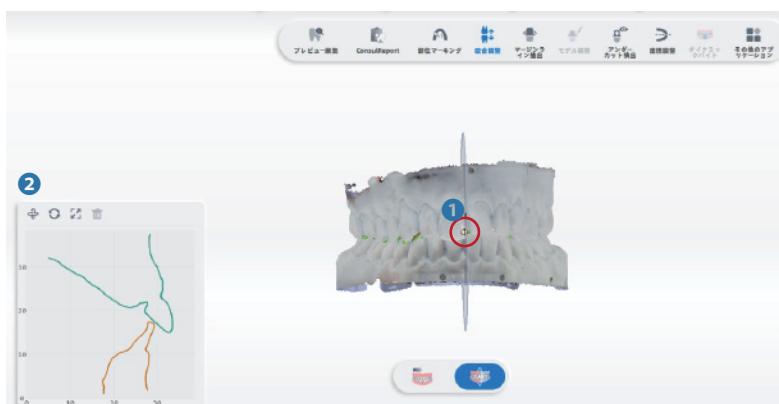
- ・緑色：上顎と下顎の間の距離
- ・赤色：上顎と下顎の接している領域
- ・青色：過咬合している領域



断面モード

断面モードでは、咬合状態（上顎と下顎の歯牙の位置）を簡単に確認できる

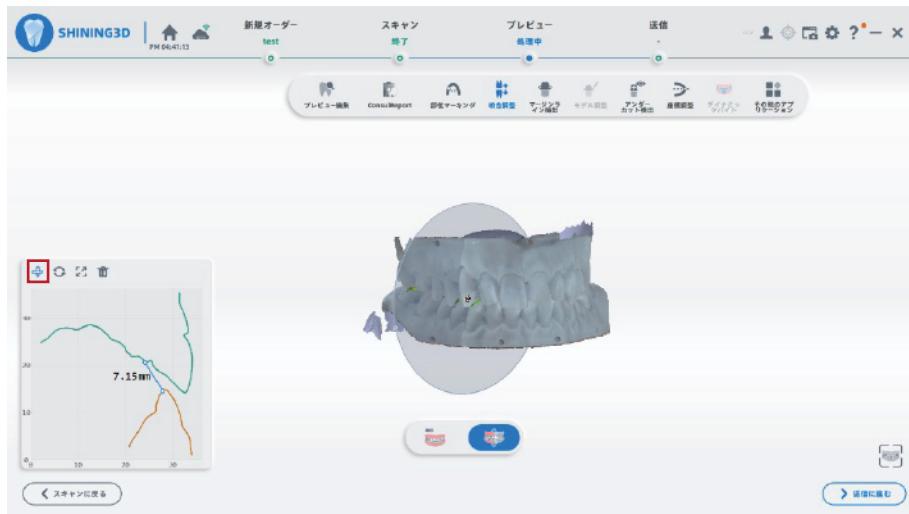
- ① 3D モデル上に直径 30mm の円形断面が自動的に作成され、断面の中央にある小さな球  をクリックするとアーチラインが表示される
- ② 左側の断面図に、断面とモデルの 2D 交差部分がリアルタイムで表示される
- ③ 断面の他の部分をクリックしたままカーソルを動かすと、断面が回転する
- ④ 左側の断面図には、交差部分の 2D ワイヤーフレームが表示され、閉そく状態を簡単に確認できる
- ⑤ ワイヤーフレーム上の 2 つのポイントを手動で選択し、距離を測定する（3 番目のポイントを選択する場合、2 番目のポイントが開始点となり、3 番目のポイントが終了点になる）





パーティカルアーチワイヤー

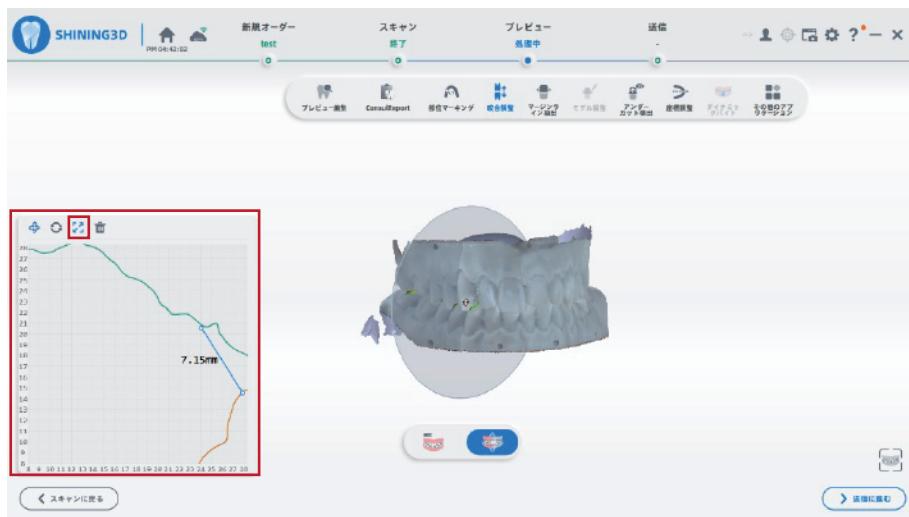
有効にすると、中心の球を移動したときに、断面がアーチラインに対して垂直になる



拡大表示

断面図が拡大表示される

もう一度クリックすると、断面図が復元される



デフォルトの比率に戻す

断面図をデフォルトの比率に戻す

断面図上でマウスホイールを上下にスクロールすると、ワイヤーフレームが拡大または縮小される



明確な選択ポイント

選択したポイントがすべてクリアされる

⑥ マージンラインの抽出

マークした歯のマージンラインを抽出して保存する

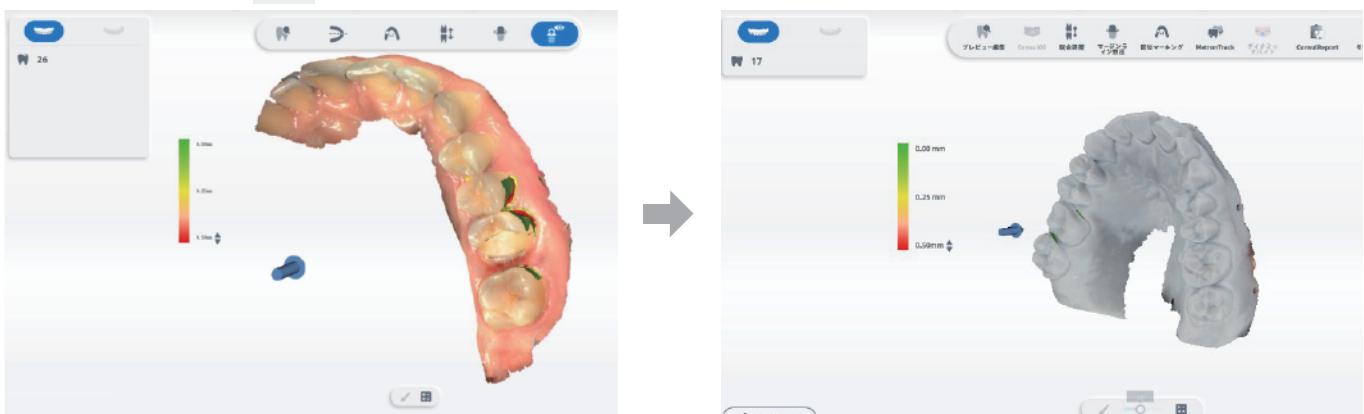


- (A)** クリックすると削った歯のマージンラインを自動的に抽出する。自動的に支台歯のマージンラインを抽出する
- 回転
- 部分ビュー :咬合平面に対する歯牙の曲率が表示される
- マージンを描いて抽出 :マウスの左キーを長押しして線を描き、マウスを離すとマージンラインの一部が抽出される
描かれた各線は自動的に前の線とつながる
- セグメント抽出 :マウスを左クリックしてポイントを生成し、歯のマージンに沿ってマウスを移動させると、
前のポイントと現在のマウスの位置の間に線が自動的に生成される
改めて左クリックすると別のポイントを生成する
線の生成を繰り返し最終のポイントと最初のポイントを重ねて
ダブルクリックしマージンを閉じる
(セグメント抽出は、明確なマージンのない歯に適している)
- マグネットスイッチャ :「セグメント抽出」機能と同時に使用しマウスの現在位置と直前のポイントの間に
曲率の大きいマージンラインを自動生成する
左クリックすると、ポイントを増やすことができ、一番目のポイントで
ダブルクリックをするとマージンラインが閉じる
- 削除 :現在抽出されているマージンラインを削除する
- 戻す :直前の操作を元に戻す
- やり直す :取り消した操作をやり直す
- テクスチャー :スキャンしたものの表面色を取得する
- スムーズ :荒い部分をスムーズにする
- フィットビュー :スキャンデータの表示サイズを画面サイズに合わせる

⑦ アンダーカットの確認

マークした歯のアンダーカットの面積を計算し、表示する

ダブルクリックまたは  をクリックしアンダーカットの確認、アンダーカットの再計算ができる



⑧ ダイナミックバイト

バイトスキャン段階でダイナミックバイトをスキャンした場合、動画データの確認ができる

筋肉の伸縮や関節の動き、亀裂などの影響による咬合の問題を発見できる

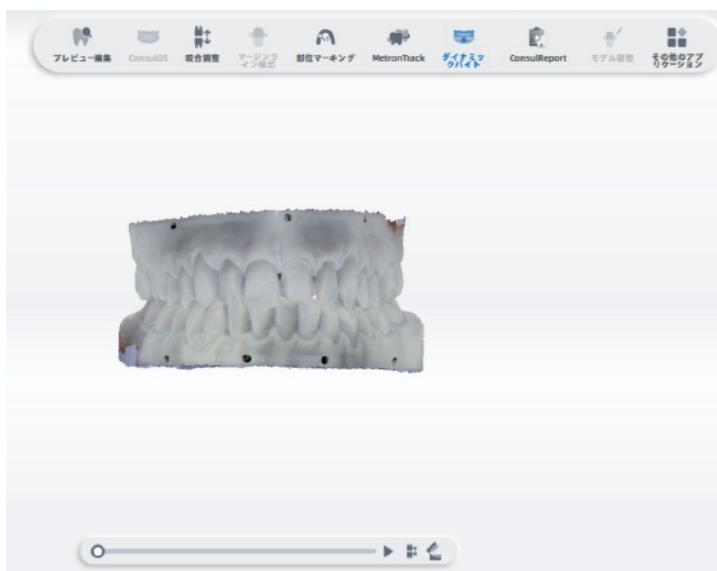
(exocad ソフトウェアの Jaw Motion Import モジュールを使用し活用可能)



咬合検出：咬合状態を確認する



顎を開く：上下顎の接点を確認する



⑦ スキャンツール

① DentalViewer

「DentalViewer」を選択すると、以下の DentalViewer が起動する

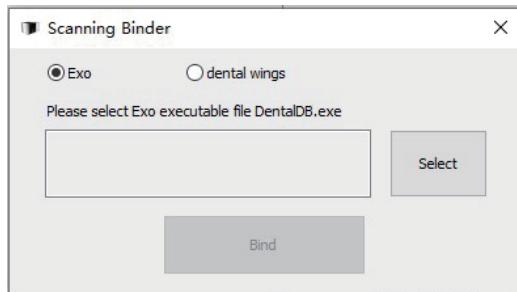
+ をクリックし、*.stl, *.obj, *.beb, *.ply ファイルを選択すると、モデルデータが開く



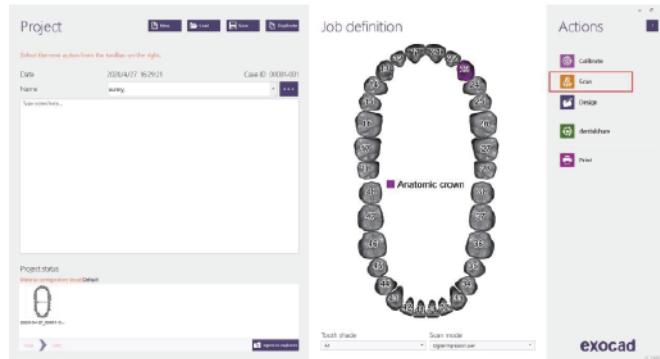
- ① モデルリスト : 変更内容の保存、モデルリストからモデルの削除、モデル追加、モデルの表示 / 非表示を選択
- ② ビュー : 正面図、背面図、上図、下図、左図、右図を選択
- ③ ソフトウェア操作 : 編集、単独データ削除、未スキャン領域を補正、テクスチャー、スムーズ

② ScanBinder

① 「DentalLauncher→IntraoralScan→Bin→ScanBinder」を選択すると、ScanBinder が開く
デザインソフトウェアの exocad や dentalwings と連動できる



- ② DentalDB の保存経路を選択し、「Bind」をクリック
- ③ DentalDB ソフトウェアで、オーダーを生成し、保存、「Scan」をクリック
- ④ スキャンソフトウェアを起動し、スキャンとデータ処理を行う



⑧ メンテナンス

*使用後のメンテナンス

洗浄及び消毒又は滅菌は以下の方法で、クレードル→スキナ→スキャンチップの順番で行う

注意

- マニュアルに記載されている指示を読み、それに従って洗浄・滅菌すること
他の方法を行いスキナが損傷した場合、製造元や販売元からの保証は無効になる
- 記載されている以外の洗剤、界面活性剤、消毒液、ワイプ等は使用しないこと
- 初期状態のスキナ本体や全ての部品は非滅菌状態であるため、使用前に洗浄・消毒・滅菌を行うこと
- 使用後は必ず洗浄・消毒・滅菌を行うこと
- 使用前にスキナ本体、クレードル、スキャンチップが洗浄・消毒・滅菌が行われているか毎回確認する
- 手順全体で清潔な手術用手袋を着用すること

① スキナクレードルの消毒

注意

- スキナクレードル、スキナ本体及びスキャンチップの手入れ方法は異なり、個別に実行する必要がある
- スキナクレードルを消毒する前に、スキナ本体がクレードルに置いていないことを確認する

- クレードルをしっかりと手で持つ
- 未使用の綿ガーゼを 70%-75%のエタノールで湿らせ、クレードルの表面を拭く
- 完了後、スキナクレードルを清潔で安全な場所に保管する
- スキナ本体の消毒に進む

② スキナ本体の消毒

注意

- 破損する可能性がある為、スキナを鋭利な物体などで掃除しないこと
- スキナ本体を水または、消毒液に浸漬しないこと

- スキナの電源を切る
- 図のように、親指と人差し指でスキャンチップをしっかりと持ち、スキナからゆっくり外す



- スキャンチップを取り外し歯科用器具トレイ等の安全な場所に保管する
 - 取り外す時にスキャンチップのミラーが破損する可能性があるので、手指でスキャンチップのミラー部分に触れてはいけない
＊ミラーにひび割れや傷がある場合は、洗浄を停止して販売元に連絡する
- スキナにプロテクションキャップを装着する。キャップが装着されている状態でスキナの消毒を行う
- 未使用の綿ガーゼを 70%-75%のエタノールで湿らせ、スキナの表面を拭く
- 完了後、スキナ本体を清潔で安全な場所に保管する
- スキャンチップの洗浄及び、消毒又は滅菌に進む

③スキャナチップの洗浄及び消毒又は滅菌

- *スキャナチップは直接患者の口腔内に挿入されるため、使用時の交差汚染を防止するため、患者に使用する前に必ず、洗浄及び消毒又は滅菌を行う
- *一つのスキャナチップにはオートクレーブ滅菌か消毒のいずれか一方のみを行う
- *手順全体で清潔な手術用手袋を着用する
- ・一度使用したスキャナチップは消毒またはオートクレーブ滅菌して再使用する
- ・スキャナチップは消毒またはオートクレーブ滅菌し100回まで再使用できる
- ・傷などがある場合は直ちに破棄する
- ・ミラーの破損、表面の傷等はスキャナの精度、本製品の不具合、患者の異物感の原因になる

①洗浄（*オートクレーブ滅菌、消毒を行う前にスキャナチップの洗浄を行うことが不可欠）

手動洗浄

- ①スキャナチップにひび割れや傷がないことを確認する
- ②アルコールガーゼまたはCaviWipesを使用し、スキャナチップの内側と外側を2回以上優しく拭く
- ③ミラー表面に汚れ、指紋が無いことを確認し清潔な柔らかいレンズクリーナー又は、糸くずの出ない布で丁寧にふき取る
- *ミラー表面に汚れ、指紋がある場合には②、③の手順を繰り返す
- ④ミラーに破損が無いことを再び確認する

自動洗浄

- ①スキャナチップにひび割れや傷がないことを確認する
- ②精製水とブラシで35°C～40°Cの温度で2分間予洗いする
- ③洗浄器で洗浄する（設定は取扱説明書に従った手順に設定する）
- ④ミラーに破損が無いことを再び確認する

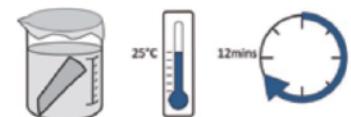
②オートクレーブ滅菌

- ①カーゼをスキャナチップの同じくらいの大きさに折る
- ②洗浄したスキャナチップのレンズにカーゼを詰める
- ③スキャナチップを滅菌バッグに入れ密封する
- ④滅菌機に入れる
- ⑤オートクレーブのパラメータを設定する
(134°C、相対圧205.8kPaで4分間行う、または121°C、相対圧102.9kPa、30分間行う)
- ⑥オートクレーブのプログラムを使用し、乾燥を30分間行ってからドアを開ける
- ⑦ミラーに破損がないかを確認する



②消毒

- ①消毒液を破損のない容器に注ぐ
- ②スキャナチップを消毒液に浸漬し、25°Cで12分間放置する
- ③滅菌蒸留水（2L）の入った容器に5分以上浸漬した後、スキャナチップを取り出す
- ④スキャナチップを滅菌蒸留水（500ml以上）ですすぐ
ミラーの水滴を清潔な柔らかいレンズクリーナー又は、繊維、糸くずの出ない布で丁寧に拭き取る
- ⑤ミラーに破損がないか確認する
- *毎回新しい滅菌蒸留水を使用する



④ 保管方法

- ・水気のない場所
- ・気圧、温度、湿度、風通し、日光、埃、塩分、硫黄分を含んだ空気等により悪影響の無い場所
- ・傾斜、振動、衝撃（運送時を含む）等の無い場所
- ・化学薬品の保管場所やガスの発生しない場所
- ・パッケージボックスが手元にない場合、破損している場合はスキヤナの各部分を緩衝材で慎重に梱包して輸送中の破損を防ぐ

長期保管

- ・長期間保管する前に、スキヤナが清潔で無菌であることを確認する
- ・スキヤナや付属品を、極端な温度の場所や直射日光の当たる場所に保管しない
- ・スキヤナを保管する前に、スキャンチップ、スキヤナ本体、クレードルが完全に乾燥している事を確認する

輸送用保管

- ・スキヤナが清潔で無菌であることを確認し、スキヤナを元のパッケージボックスに入れる
- ・スキヤナ本体、クレードル、スキャンチップをパッケージボックスに慎重に入れ、ケーブルのねじれを防ぐ
- ・各ケーブルが巻き取られ、絡まっていることを確認してから元のパッケージボックスに入れる
- ・蓋を閉じる前に、製品がパッケージからはみ出していないことを確認する

⑤ 廃棄方法

注意

二次汚染を防ぐために、スキヤナを廃棄する前に洗浄する必要がある

スキャンチップの破棄方法

使用済みのスキャンチップを破棄する際は滅菌後、医療機関または地方自治体の定める方法に従うこと

全ての電子機器は、再利用、リサイクル等を促進し環境や人間の健康に対する有害物質の悪影響を防ぎ、家庭ごみとは別に廃棄しなければならない

これにはUSBケーブルなどの付属品も含まれる

該当する法律及び規制に従って、本製品とその付属品を安全に廃棄すること

本製品と付属品の廃棄に関する具体的な情報は地域の指示に従う

⑨ トラブルシューティング

① エラーコード対応表

エラーコード	内容	対応方法
0x0100040a	基板またはテールケーブルの不良	基板またはテールケーブルを交換する必要があります support@geomedi.co.jp までご連絡ください
0x01000411	AOS3 W ファームウェアエラー	ソフトバージョン更新で解消できない場合 ファームウェア更新が必要です support@geomedi.co.jp までご連絡ください
0x01086004	温度センサエラー	修理が必要です support@geomedi.co.jp までご連絡ください
0x03083003	ソフトウェアはまだ 40 シリーズ GPU と互換性なし	パッチファイルを使用、または 3233 へ アップデートしてください
0x81080003	3417 でアルゴリズム初期化失敗	「AI issue patches.zip」を展開し、DentalLauncher\ IntraoralScan\ Bin にコピーしてください
0x81086008	AOS2シリアル番号が認識できない	support@geomedi.co.jp までご連絡ください
0x81087004	キャリプレーション失敗	1. キャリプレータにしっかり差し込み再試行 2. クラウド同期 3. GPU ドライバ更新
0x82080005 0x82000007	撮影モジュール破損	アプリケーション再インストール
0x83008010	未知エラー	遠隔で確認いたします support@geomedi.co.jp までご連絡ください
0x90000006	タイムアウト / PC 関連エラー	1. スキナ・PC 再起動 2. GPU ドライバ更新 3. RMA 容量確認

エラーコード	内容	対応方法
00x41080006	ドライバ関連エラー	ドライバを再インストール
0x82080000	ソフト内部エラー	ソフトを再インストール
0x82080100	オーダーで異常	1. キャリブレーション再実施 2. オーダーフォルダ内の dentalscan.pro を削除し dentalscan.pro.bak を dentalscan.pro にリネーム
0x85080055	クラウド個人情報に特殊文字	名前の変更で解決
0x41080100	ファームウェアアップデート ドライバエラー	最新ソフト・ドライバを適用
0xc0000142	OS 24H2、ソフト v311x 以下非対応	最新ソフトにアップデート
0x02080500	デバイスシリアル番号不一致	オーダー確認、必要に応じてサポートへ連絡

⑩ マニュアル動画

① 開封



② ソフトウェア
インストール



③ スキャンチップ
滅菌方法



④ キャリブ
レーション



⑤ コードスキャンボディ
開封と紹介



⑥ コードスキャンボディ
清掃と滅菌



⑦ コードスキャンボディ
活用のヒント



